

(1) [校長・教頭・事務長]

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和3年度一般入学者選抜では、普通科志向が顕著となり、大阪府全域で専門学科の受験者が募集定員に届かない高校が多数あった。西高校は、来年度堀江中学校校地となり母校喪失を迎える中、昨年度新設の「教育情報科」80名のみの募集にもかかわらず、86名の志願者があり、新学科に対する十分な理解をいただいた結果と受け止められる。今年度は、新高校への再編統合に向けた最後の年であり、西高校がこれまで実践してきた教育への高い評価と、継承する新学科について十分にご理解をいただき、新高校へ引き継ぎたいと考える。

昨年度末の進路状況は、きめ細かい進路指導により、就職内定率は100%を継続し、進学については国公立4名（うち1名は国立高専編入）、関関同立7名、産近甲龍15名という結果を出した。

これまで英語科・流通経済科・情報科学科による実績が、十分に評価されている現状を踏まえ、新学科である教育情報科も昨年度からスタートした。職業観・世界観・人生観が大きく変化していくSociety5.0時代を、しっかりと生き抜く力を身につけ将来の目標を実現できる生徒を育てるために、西高校の取り組みとして、生徒にコアコンピタンスとなるスキルやノウハウを習得させられるよう、教育内容の精選を行い、それを4学科の在校生に適用し、一歩先の高校教育を進めたい。

そのために、高大連携のさらなる強化・発展と産学連携の本格導入によって、4学科それぞれが専門性の高い教育に努めたい。さらに西高校独自の素晴らしい教育実践を発展させ、生徒たちが西高校を選択したことに誇りを持って、全教職員で責任を持って取り組んでいきたい。

中期目標

令和2年3月改訂の「大阪市教育振興基本計画」でも、2つの最重要目標は変わらない。西高校では、従来通りこの2つの目標をベースに課題解決をめざすため、次の中期目標を掲げる。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

西高校では、いじめ・体罰に関連する問題事象は昨年度も確認されていない。これは、生徒たちの穏やかで真面目な気質と教員のきめ細かい指導の相乗効果と分析できる。一方、SNS等の悪用や、現代社会が持つ様々な危険から自らを守り、加害者にもならないように、人間としての正しい価値観やモラルを身に付けさせなければならない。そのために、授業はもとより学校行事、HR活動、保健指導、部活動指導等のすべての教育活動で対話を重視した実践をさらに強化する必要がある。

また、再編統合へと向かう状況を踏まえ、生徒たちがやる気をなくしたり、寂しい思いを抱かせないために、学校全体として退潮ムードが蔓延しないよう全力を挙げて取り組む必要がある。

いずれにしても、これまで西高校が実践してきた人間力の育成を継承、発展させ、生徒と一体感のある教育を展開することが重要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

再編統合のプラン構築の最終段階を迎え、新しい高校での教育目標や学科構成、カリキュラムデザイン、各種規定等、検討課題が山積する。そんな中、英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科という専門学科で構成される西高校では、新高校に継承すべき専門教育を見極め、更なる発展と充実を目標としなければならない。また、教育系大学も含めた大学進学が重視される新校においては、基礎学力の定着が重要となる。これらを受けて、中期目標として専門教育の充実と基礎学力指導の充実を最重要課題とする。西高校は統合までのこの1年間、その存在感を十分に示すとともに、より発展した教育の形を新高校で作りあげる役割を担い、新高校へ引き継ぐことが重要である。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

生徒指導のあらゆる場面において対話による指導を実施し、いじめの発生を防ぐとともに生徒の問題行動を起こさないように、きめ細かい指導を徹底する。本年度は、大阪市教育振興基本計画の施策1～3および施策8に基づき、具体的に次のような目標を設定する。

- ①生徒と教員の対話によりお互いの意思の疎通をさらに深めるとともに、問題行動を起こさないように事前指導の充実に努め、問題行動による特別指導の件数を出さないように努める。
- ②折に触れ、基本的な生活習慣指導を行う。
- ③学校生活はもとより、学校行事や団活動、HR活動、部活動の充実に努め、生徒の学校に対する満足度をさらに高める。
- ④すべての教員がカウンセリングマインドを持ち、人権教育はもちろんキャリア教育、健康教育等を充実させ、不登校生徒や中途退学者を出さないように努める。
- ⑤すべての校務分掌で、道徳心・社会性の育成に努め、学校協議会等からの高い評価をめざす。
- ⑥再編統合による最後の年にあたり、地域はもとより多くの市民から支持される学校をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科の専門教育を充実させ、本市が積極的に取り組んでいる英語教育とICT教育の充実に貢献する。また、再編統合の最後の年にあたり、確かな専門力を育成するために、必要なシステムや教育内容について研究・検討を重ね、西高校としての高い教育力を示す。並行して基礎学力の定着についても取り組むが、専門教育の充実に第一目標として設定する。本年度は、大阪市教育振興基本計画の施策5、6、8に基づき、具体的に次のような目標を設定する。

- ①英語科生徒はもちろん、他科の生徒に対してもC-NETとの連携強化やICT機器の積極的導入によりコミュニケーション指導を充実させる。そのための施設・設備の充実と教材開発を行う。
- ②英語教員の研修を充実させ、本市の英語教員のリーダーとなれるような人材育成に努める。
- ③情報教育の専門知識が豊富な指導者の発掘に努める。
- ④大学教育との連携をさらに強化するため、現在実施している様々な事業を継続・発展させるとともに、新たな企画を立案し実践する。
- ⑤進学希望者への指導をさらに充実させ、大学への合格実績を伸ばす。

3.本年度の自己評価結果の総括

生徒と教員間の意思疎通については、日常での細やかな対応と必要に応じた個別指導により非常に深まり、さらに生徒会行事を含めた学校行事への取り組みによって、生徒の学校に対する満足度を高めることとなった。今年度もコロナ禍の状況を踏まえ、基本的な生活習慣指導を行い、人権教育をはじめキャリア教育、健康教育等を充実させることができた。今年度で英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科という4つの専門学科での教育が、再編統合とも重なり最後の年度となったが、全科の生徒に対して、C-NETとの連携強化やICT機器の積極的導入により、コミュニケーション能力の充実に努めることができた。また、高大連携の強化により、進学希望者への指導が充実し、大学への合格実績をさらに伸ばすことができた。次年度は、再編統合ならびに府への移管に伴い、教育情報科のみの生徒となるが、生徒と教員との努力と協調という強みを活かして、西高校が実践してきた人間力の育成を継承・発展させ、より一層高い志の気持ちでの取り組みを期待したい。

(2)〔国際交流〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

新型コロナウイルス感染拡大の現状を踏まえ、研修旅行、交換留学、訪問団の受け入れなど、従来の国際交流活動ができず、再開のめども立っていない。可能な限り姉妹校や国際交流センターなどとの連携を図り、生徒の多文化理解を深め、国際社会で活躍できる人材を育てる活動を企画・推進するよう努めている。また、再編統合・新校に向けて、姉妹校の Parkdale 校とは提携内容の確認と改善を、Bayview 校とは本年度最後となる姉妹校関係の終結と市立高校との橋渡しをスムーズに行う必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

従来の姉妹校との交流の実現に向けて、フレキシブルな対応を整える。また、国際交流活動が日常的な取り組みになるように、効果的な交流を模索する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 姉妹校との交流や、市・府などの国際交流事業にも参加し、オンラインなどを利用した交流を企画・実践する。
- ② 再編統合・新校に向けて、姉妹校提携内容を確認・改善し、Bayview 校との姉妹校関係は理想的な形で終結する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、姉妹校や訪問予定であった英国の高校などとの訪問を伴う国際交流を行うことができなかったが、オンラインや文通により頻繁に新しい形で交流することができた。Bayview 校との姉妹校関係もスムーズに終結することができた。再編成・新校に向けての姉妹校協定の確認など、来年度に向けての準備も可能な限り整えることができた。

(3) [教務部(データシステム管理部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度の新校統合、また新学習指導要領実施に向けて新学科の教育課程を編成してきたが、それを実施するための具体的な内容のさらなる検討が必要である。さらに校内における多岐にわたる事務作業の増加に対応するべく、パソコンなどの利用をより効率的に行う必要に迫られている。

校内で使用している電子データは、同一データの繰り返し入力や、データ更新が統一されないなどの問題点を含んでいる。このようなデータ構造を見直し体系化することにより、データの一元化・作業の効率化を進め、データ管理体系を構築していく。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

組織的な学校運営を行い、新学科、新教育課程の内容を熟考し、社会の変化に対応できる人間を育成する教育活動を推進する。

データシステム部統合により、入試処理・成績処理・調査書作成の各システムを改良するとともに、システム間でもデータの共用化など連動部分を強化する。また選択科目システム・時間割作成システム・名列表作成システムのデータ共通化と操作性の向上をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ①授業時間数の確保を考え、年間行事を計画する。
- ②新教育課程の実施に向けての内容を検討する。
- ③追認対象者を減らすとともに、その指導を徹底する。
- ④入試・選択科目・時間割作成・名列表作成システムのデータ一元化と修正をする。
- ⑤成績処理・調査書作成システムの改良をする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

- ①コロナ禍の影響で行事変更が多かったが、時間割変更等を実施し、授業時間数の最低限の確保とともに科目間の授業時間差異を極力少なくすることができた。
- ②新学科の教育課程について、現在の3学科のそれぞれの強みの継承をしつつ、現代のニーズに合った教育課程を編成することができた。
- ③追認試験対象者を例年より少なくすることができた。
- ④新学科2年目ということで、入試・時間割作成・名列表作成システムの改良を行い、運用することができた。
- ⑤成績処理・調査書作成システムについて、今年度、問題になった点についての改良を加え、運用しやすいものとなった。

概ね、年度当初の目標を達成できた。統合に向けてしっかりと準備ができている。

(3) [教務部(図書視聴覚部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

○図書室への来室者数は、年々増加傾向にあるが、今後の課題として図書室の利用を促すための動機付けをより一層工夫していくことが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
○感受性を育成するとともに、読書習慣の定着をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ①生徒の感受性育成の一助として、全学年を対象とした視聴覚行事を実施する。
- ②大阪市立中央図書館と連携しながら、生徒の読書習慣の育成を推進する。
- ③再編統合・新高に向けて、図書室の環境整備と引継ぎ等に取り組む。

3. 本年度の自己評価結果の総括

今年度視聴覚行事は英語落語の講演会を行った。コロナ感染症対策として体育館と自教室に分かれオンラインで実施した。また、大阪市立中央図書館との連携も行い、生徒の読書習慣の育成を推進した。

図書室の来客者の割合は増加傾向にあるため、蔵書の充実を図った。桜和高等学校への引継ぎの準備ため精選をし、環境整備を行った。

(4)〔生徒指導部〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校は現在、落ち着いた環境で教育活動が行われているが、この教育環境を維持し発展させるため、生徒の基本的な生活習慣の向上と人権尊重の精神の育成を図る必要がある。
- 生徒会を中心とした学校行事、団活動やクラブ活動への関心をより一層高め、自立・共生の精神を育て、生徒個々の自己実現につながるよう指導する必要がある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 基本的な生活習慣の確立と人権を尊重する精神を育成し、いじめの根絶と安全で安心な学校をめざす。懲戒件数年間0を目標にする。
- 生徒会を中心に、全校生徒が学校行事やクラブ活動に積極的に参加できる環境を整え、生徒個々の自己実現の支援を行う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 遅刻0の日の増加をめざすとともに、服装、頭髪、言動の乱れをなくす。また、挨拶が1日の始まりとなるよう挨拶の励行を行う。
- ② 全体集会や講演会で人権を尊重する大切さを訴え、他者を思いやる心、共に生きる共生の心の育成を図るとともに 警察と連携し交通規則の順守、いじめや差別を許さない意識向上をめざす。
- ③ 生徒指導部と全校生徒とのコミュニケーションをできるだけ密にとるように努め、事件が起こってからでの指導ではなく、事件を起こさないように事前の指導に力を注ぐ。問題行動の実態把握と未然防止に取り組む。また、SNSの危険性を伝え、利用にあたってのモラルの向上をめざす。
- ④ 1年生の部活動加入率7割以上をめざす。また団活動、部活動を通じ学年を超えた協力関係を築き、リーダーシップや自主性、連帯感、共生の精神を養う。
- ⑤ 生徒会執行部と各クラスの連携を深め、学校行事の運営に関わっているという自覚や責任感・充実感を持たせる。裏方で行事を支えてくれている人がいることを理解し、感謝の気持ちを持てる生徒を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

- ① 遅刻0を目標においてきたが、生活リズムの改善を支援していくにとどまり、欠席するよりは遅刻してでも授業を受けることやいつもより早く来ることでスモールステップを踏むように指導せざるを得ない状況であった。
- ② 全体集会は実現できなかったが、随所で伝えることができ、いじめの報告はあがっていない。
- ③ SNSに絡むトラブルは最小で抑えることができ、大きな問題となることはなかった。
- ④ 入部と退部が繰り返され、1年生にとって落ち着かない1年間の活動であった。
- ⑤ 生徒会執行部の自覚と責任を持たせるように取り組んできたが、行事が大幅に変更されることで、例年通りのイメージをうまく活用できず苦勞した。次年度へのつながりを意識して指導を行ってきたので、期待したい。

(5)〔進路指導部〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒の進路目標をより高め、一人ひとりに応じた指導を充実させ、進路を主体的に考えることができる指導をめざす必要がある。

就職について、事務職の指定校求人数が不足しているため、今後、会社訪問・企業交流会等への積極的な取り組みが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 生徒の進路実現をサポートし、進学実績を向上させる。
- 高大連携事業を積極的に活用する。
- 職業観の育成をはかり生徒の自己実現の可能性を広げる。
- 将来の進路に向けて、目的・目標や職業意識等、個々のキャリアを考えさせる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 新型コロナウイルスによる混乱の中、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細かな進路指導・面談・補習等を実施し学力向上をサポートする。
- ② 進路説明会を実施し、進学に対する目的・目標や職業意識等を育成する。
- ③ 経済悪化による求人数減少が予想されるが、指定校企業やハローワークと連携を密にしながら就職実績を継続させる。
- ④ 高大連携によって、生徒の学習意欲や目的意識を高め、適切な進路選択を支援する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

- ① 新型コロナウイルスの影響は残っているが、進学・就職ともに日程の変更はなく例年の日程で進路指導を実施することができた。
- ② 大学や卒業生とオンラインを用いた模擬授業や講演を実施することができた。
- ③ 就職は1回目の試験で内定できなかった生徒も2回目の試験で全員が内定し、就職率は100%である。
- ④ 高大連携によって、関外大・大経大ともに多くの生徒が合格した。次年度以降も継続していきたい。

(6)〔健康教育部〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

欠席・遅刻、不登校傾向生徒が増加傾向にあり、それが常態化している。心が未成熟な生徒、指導が入りにくい生徒の存在、その背景にある家族の形態の多様化や家庭の指導力の低下が憂慮されている。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

美化・環境整備に関心を持ち、地域の防災リーダーになれるような取り組みを進める。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 心身の健康に関する正しい知識を身につけさせる。
- ライフスキルを確立させる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 感染症について広く知識を持ち、望ましい生活習慣や行動を身につけさせる。
- ② 行事ごとに保健委員・設備美化委員をリーダーとした啓蒙活動を行い、自主的な美化清掃活動を徹底させる。
- ③ 校内のごみの分別、軽量化に向けて取り組みを進める。
- ④ 一人一人の生徒の成長に関わっていけるように、教職員間の連携を強め、情報や対応の仕方について、協議を重ねながら共有できる体制づくりをする。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 定期健康診断で精検を指示された生徒の事後措置として、早期受診を促し、学習活動に支障のないように指導する。
- ② 慢性疾患を持つ生徒が自己管理できるよう定期的に懇談の機会を持ち、心身の安定を図るよう指導する。
- ③ 心の健康に問題を抱える生徒には個々に応じたアプローチをし、行動化に結び付くような指導を心がける。
- ④ 生涯にわたってよりよく生きるために、また仲間や生徒の心の不調にいち早く気づくことができるように、生徒・教職員のMHL（メンタルヘルスリテラシー）教育を充実させる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

生徒が登校不安などで長期に欠席している時、家庭でどのように過ごしているのか、保健室にはなかなか伝わってこないことが多く、顔を見て話しができることの大切さが、お互いの安心感を生み、大変貴重なことであると痛感した。その中で各種行事が何とか遂行できたことはとてもありがたく、学校HPやSNSを活用したことは、生徒が久しぶりに登校する時の不安の軽減にも繋がっていた。

(7)〔人権教育推進委員会〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校においては、基本的な生活習慣が確立した生徒が多く、授業や部活動、特別活動に積極的に参加する傾向がみられる。校内では特に目立ったトラブルはなく、生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。また、外国籍の生徒もおり、異文化理解や共生がより一層求められる現状もある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 自らの人権を守るとともに、他の人びとの人権を認め、お互いを尊重しあえる態度を育て、将来にわたり民主的社會を構成する一員として必要な思考力と行動力を身につけさせる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 時代のニーズに即した身近な問題を取り上げ、生徒の実態に応じた人権教育を推進する。
- ② P T A人権委員をはじめ保護者や地域との連携を図り、さまざまな人権問題についての啓発をめざして、講演会等の研修会を実施する。
- ③ 教職員間での人権意識の向上をめざして、講演会等の研修会を実施する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

年度当初の予定通りに全校一斉を1回、学年別を2回実施できた。形態はコロナウイルスの影響もあり学年別ではDVDなど映像教材を用い、レポートを作成するようにした。全校一斉人権学習では体育館での講演を教室にライブ中継することを試み、実施することができた。内容もSNSに関することで生徒になじみやすいものであった。

(8)〔英語科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

グローバル社会で活躍する人材の育成と、一人ひとりが希望する進路の実現をめざすべく日々取り組みを行っている。英語の運用能力を高め、資格取得支援の充実と、進路実現に向けてのさらなるきめ細やかな指導が必要である。また、大学入学共通テストへの移行や学習指導要領の改訂を考慮し、生徒たちが必要とされる学力を効果的に習得できるよう、カリキュラム、授業案、教材等を研究し、実践する必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 進学先や検定合格結果から、卒業までに基礎・基本のみならず発展段階まで学力が定着したと認められる生徒の割合を、前年度の水準より増やす。
- 豊かな語学力を身につけ、海外に日本の文化を発信するとともに、外国の文化を理解、尊重し、グローバル社会で活躍できる人材を育てる。
- 英語でのプレゼンテーションやスピーチ、エッセイライティングなど英語の運用能力を総合的に向上させ、英語表現能力を強化する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

グローバル社会・情報社会時代に生きる、明るくたくましい人材育成する。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 効果的な授業案や指導により、英語の運用能力を身につけさせる。
- ② 生徒の希望を実現できる進路指導やガイダンスを、前年度と同じ回数行う。
- ③ 組織的な補習体制を組み、生徒の進路実現を支援するため、週1回以上の補習をする。
- ④ 日本文化を発信し、異文化を正しく理解する機会（教材、プレゼンテーション）を増やす。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業などで異文化理解、多文化共生、国際理解の大切さを学ばせる。
- ② 英語をより実践的に使えることをめざす教育を充実させる。
- ③ 英語を使って発信することの意義を学ばせ、エッセイライティングやプレゼンテーション能力を向上させる。

3.本年度の自己評価結果の総括

新型コロナ感染拡大の影響による厳しい状況の中、全職員の方々の協力のおかげで、教育活動を工夫して行うことができた。プレゼンテーション、オンラインアセスメント、X-reading を用いた多読活動、オンラインでの国際交流活動、スピーチコンテスト、進路、検定対策補習など、進路の実現、生徒の英語運用能力の向上のために、各授業、行事にて、工夫して言語活動を行うことができた。

(9)【流通経済科】

1.学校運営の中期目標

現状と課題

- 全商簿記検定1級取得を目標とする。苦手意識が強い生徒には、情報処理検定1級か英語検定1級を目標とし、いずれかの検定1級取得に注力させ、個性を伸ばす。生徒の状態をみながら、他の様々な検定にも挑戦させ、無級状態にならないようにする。
- 現状に満足してしまい、今の力で入れる進路先に安易に進学・就職を決めてしまいがちである。目的意識の高揚が必要である。
- 就職、AO・推薦入試で課される面接において、部活動・検定以外にもアピールすることができるスキルの習得や校外活動への参加を促す。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 1年生から、流通経済科の進路先、必要な学習・検定を生徒自身が理解し、注力できるようにする。特にアドミッションポリシーに掲げる「世界のあらゆるビジネスシーン」で活躍する力の基礎として、簿記・英語情報処理検定の合格率をあげる。また、英語の資格が重視されている点も認知させる。それらの資格をいかした進学・就職率をあげていく。
- ② 学年と連携し各学年に応じた、科による進路ガイダンス（外部連携授業、就職講話、適性検査など）を継続して行う。4年制大学の専門学科推薦や学科の特色を生かしたAO入試での進学に挑戦するように指導する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① アクティブラーニングの機会を増やし、授業を通じて課題を見つけさせるように指導する。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 流通経済科のロードマップに基づいた指導の徹底。簿記・情報処理検定合格率を向上させ、英語科（全商英検・STEP英検）との連携を進める。

- ② 流通経済科の授業において進路実現に必要なスキルや検定を紹介できるようにする。学科の特色を生かしたAO入試や専門学科推薦での4大受験数の増加を目標とする。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ①-1. 校外活動への参加生徒、提供する機会を増やす。（見学会・講演会・実習・コンテスト・発表・インターンシップ・高大連携企画 参加者のべ20名以上）
- ①-2. 「課題研究」や「広告と販売促進」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。多種多様なアクティブラーニングを取り入れ、地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域での認知度を高める。

3.本年度の自己評価結果の総括

検定取得率は昨年度より上昇し、全商検定3冠以上取得者の数は大幅に増加した。今年度もコロナの影響を受けることになり、2学期の1か月間授業が止まってしまったが、zoom授業を行うなどして、なんとか切り抜けることができた。本校初の地域を巻き込んだイベントも実施できたし、総合実践、課題研究も例年通りのことが実施できた。ビジネスマナーにおける茶道も規模を縮小しながらであったが実施することができた。流通経済科の教員の数が減りながらも流通経済科として3年生で提供すべき授業は十分なことができた。

(10) [情報科学科]

1.学校運営の中期目標

現状と課題

近年、授業をきっかけに自ら学び専門力を高めるカリキュラム構築を進めてきた。その成果もあり、情報分野に興味・関心を示す生徒が増え、課題研究等では生徒が自ら探究し作品制作をおこなっている。Society5.0の時代をリードする人材を育成するため、授業内容に更なる最先端技術の内容を取り入れ、情報科学科最後の1年に相応しい教育を展開していく。

情報科学科の進学実績は、AO入試や専門学科推薦入試など推薦入試が大半を占めている。多様入試に対応し、大学進学率を維持するために生徒の専門力を高め、課外活動への参加を促す。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

情報技術が日々進化する中で、AI・IoT・データサイエンスなど最先端技術の内容も取り入れた授業を実施する。また、専門力の向上と進路実現のために、実習内容の充実で興味・関心を深め、大学に提出できる作品制作を促し、情報関連の資格取得者を増加させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

情報化社会におけるモラル教育を徹底し、ネットワークや機器の健全な活用能力を育成する。アクティブラーニングなど探究的な学習における情報教育が担う役割を理解させ活用できるようにする。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① Arduino や RaspberryPi などのマイコンボードの導入や、python 言語を用いた機械学習など最先端技術の内容を新しく授業に取り入れる。
- ② IoT の分野に力を入れるため、3D プリンタに加え新たに導入したレーザー加工機を使用し、モノづくりの部分について強化する。また、作品提出型の入試に対応できる作品の制作を促す。
- ③ 情報分野の国家試験や情報技術検定の受験を促し、合格者数を増加させる。
- ④ 卒業後の進路について、将来の職業やそれにつながる進学先などの具体的なイメージを持た

せ、生徒個々の進路希望に応じた個別指導の充実を図る。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業や実習を通じて、ネットワーク時代の情報管理と取扱いのモラルについて意識させる。
- ② ネットワーク通信の仕組みを理解することにより、安全かつ合法的な利用方法を習得させ、自己理解、他者理解を通じて道德心の育成を図る。

3.本年度の自己評価結果の総括

情報科学科の最終年度であったが、AI や IoT の内容を意識し最先端技術の内容を授業に取り入れることで、生徒の授業満足度が上がった。また、課題研究ではグループでの制作活動をおこない、Maya や Unity を用いたCG作品やゲーム作品、VR 作品やモノづくり作品など多種多様でクオリティの高い探究活動が行われた。資格取得では、IT パスポート試験の合格者が増加し、進路指導では多くの生徒が希望の進路を実現した。

次年度は教育情報科のみになるが、情報科学科で実践してきた授業内容や探究活動を継承・発展させていきたい。

(11) [教育情報科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年新設した教育情報科では、西高校の良き伝統を凝縮し、情報分野と英語分野の学びを中心にコミュニケーション能力の高い人材の育成を目指す。西高校最後の募集にもかかわらず、86名に志願していただけたのは、教育情報科の教育内容を十分に理解していただけたからだと考えている。アドミッションポリシーに掲げた教育を実現し、生徒たちの求める教育の機会を提供できるよう、試行錯誤を重ね、質の高い授業を構築していく必要がある。

課題としては、2つの分野を学ぶため、それぞれの授業時間数が減少することがあげられる。そのため、両分野で高い専門力が身に付くように、授業内容を精査する必要がある。また、授業外での自学自習が進むように教育支援をおこなっていく必要もある。授業では、特にコミュニケーション能力を高め、社会のリーダーとしての資質を育てるために、1年次の教育探究が大切になる。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 映像や3DCG、アプリケーションの制作からデータサイエンスまでを経験し、高い情報活用能力を身に付けることで、将来情報を積極的に活用し社会で主体的に活躍できる人材の育成を目指す。また、高い情報活用能力を身に付け、情報分野の技術者を目指す生徒には、AIやIoTなど最先端技術にも触れさせ開発者としての学びのきっかけを提供する。

○ 英語での日常会話、プレゼンテーション、スピーチ、エッセイライティングなどを通して英語の運用能力を向上させ、日常生活において活用できる英語表現能力を身につける。海外に日本の文化を発信するとともに、世界の様々な国や地域の文化に関する理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。英語検定やGTEC、オンラインによるアセスメントや学習ツールを活用し、主体的で自律的な学習を支援する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 高いコミュニケーション能力で社会のリーダーとして活躍できる人材を育てるため、教育探究を中心にさまざまな授業でアクティブラーニングや探究学習をおこなう。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 1年生の情報分野では、パソコンを無理なく扱える情報リテラシーを習得する。また、ビジュアルプログラミングから始め、プログラミングやハードウェアの基礎的な知識を習得する。
- ② 2年生の情報分野では、既存のアプリケーションやコンテンツを、生み出す側としての知識を深め、主体的に物事を考える力を付ける。
- ③ 主体的、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成する。日常的话题や社会的な話題について、話し手や書き手の意図を的確に理解したり、情報や考えを適切に表現できる基礎的な力を身につける。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 教育探究の授業において生徒間でコミュニケーションをとる機会を増やし、様々な分野にわたる興味関心を深め、リーダーシップの醸成を目指す。

3.本年度の自己評価結果の総括

情報分野では、授業でのCGやゲーム制作において、知識を深めながら主体的に探究し、制作活動に没頭する生徒が多く見られた。また、夏期講座におけるグループでの制作活動では、アイデアを出し合い技術的な壁を乗り越えながら各班が良い作品を完成させた。資格取得では、基本情報技術者試験に2年生が3名合格し、1年生8名が挑戦中である。1年生の検定試験の合格率が低かったが、来年度の授業で学びなおし再チャレンジしてもらいたい。

英語分野では、身近な話題や社会的な話題を題材に、1年生は英語での日常会話、2年生は異文化理解をCNETとの少人数制授業で行った。プレゼンテーション、オンラインでの4技能アセスメント、X-readingを用いた多読活動、オンラインでの国際交流活動、日本文化を英語で発信する「歴史街道」、暗唱・スピーチコンテスト、検定対策補習など、生徒の英語力向上と進路実現のための活動を、協力して行うことができた。

探究活動では、1年生において、自己理解、他者理解を深めながらコミュニケーション力を高めることができた。また、2年生においては様々な授業で探求活動を行い、コミュニケーション力を高める授業の実践ができた。

(12)【国語科】

1.学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が基本的な国語力を有してはいるが、国語を的確に理解し、適切かつ効果的に表現する能力を向上させる必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 漢字や現代用語、古文単語などの語彙の学習により、基礎的な力の向上をめざす。
- ② 読解力と共に論理的思考力・表現力を身につけ、ものの見方・考え方を深める。
- ③ さまざまな作品・文章に触れることで、想像力を養い言語感覚を磨いていく。
- ④ 生徒の進路希望状況に応じて、個別指導や補習を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

コロナ不安での出席停止の生徒への特別課題など対応しきれなかった部分はあるが、毎時間の授

業を大切にし、補充教材や小テストの実施などで基礎力の向上を図ることができた。
3年生に対しても長期休暇の補習や小論文の個別指導などを行い、希望する進路への合格を目標として学習に取り組みさせた。

(13) [地歴公民科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

地歴公民科では、我が国の社会の一員として生きるための必要最低限の知識の習得に加えて、これからの社会において主体的に行動し、より良い社会を作り上げる人間を育てる必要がある。また、本校における進路の多様性を踏まえて、大学の受験に対応したカリキュラムを構成することが求められている。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 各必修履修科目において、高校での地歴公民学習への導入と動機づけを行う。
- ② 1年の「現代社会」の授業において、社会の出来事への関心を高め、現代社会の基本的な問題についての理解を深めさせる。
- ③ 2年の「世界史A」の授業において、世界の近現代の歴史を我が国の歴史との相関を踏まえながら、現代社会の諸問題の原因等に着目して考察させる。
- ④ 3年の「日本史A」の授業において、我が国の近現代の歴史を世界の歴史と関連づけながら、現代社会の諸問題に着目して考察させる。

演習等の選択科目の授業において、「地歴公民科」を大学入試の受験科目とする3年生を対象として、放課後や夏季休業中を利用して、補習を実施する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

年度目標に対してはおおむね達成できたものと分析している。地歴公民科を大学入試科目で活用した生徒が優秀な成績を収めるなど、一定の成果を得ている。一方で18歳成人や現代の社会を絡めた授業展開がより求められる。

(14) [数学科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の生徒には数学に苦手意識を持っている生徒や、数学嫌いの生徒が多く見受けられる。彼らの苦手意識を少しでも和らげ、数学的（科学的）思考法を身につけさせる。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 新学習指導要領に向けて、表現力をつけられるような取り組みをする。
- 生徒の理解度を把握し、教材・授業内容を精選する。
- 生徒が興味を持って学習に取り組めるよう、話題や教材を工夫する。
- 家庭学習の習慣をつけさせ、家庭学習時間を増やす取り組みをする。
- 個別またはグループ別に補習を行い、数学の単位不修得の生徒数を最小にする。
- 受験（共通テストを含む）などにおいて、数学を必要とする生徒に対して補習を行う。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 机間指導や小テスト等で生徒の理解度を把握し、授業内容に反映する。
- ② 学習の動機づけとなる話題や教材を生徒に提示する。
- ③ 復習を習慣づけるため、できるだけ頻繁に課題を与える。また問題集を有効に利用し、各定期考査後または長期休業後に解いたものを提出させ、自主学習の習慣をつけさせる。
- ④ 理解度や進路希望等を考慮し、放課後や長期休業中に補習等を行う。
- ⑤ 看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、年間を通じて目的を達成する時期まで補習を行う。

3.本年度の自己評価結果の総括

- ①学力差があるクラスにおいても机間指導で個別対応し、また小テスト等で基礎力を固めさせるとともに、学習状況を把握しながら、クラス全体の学力向上に努めた。
- ②单元ごとに日常生活と数学の関わりを紹介しながら興味関心を広げた。
- ③毎時間課題を与え、次時に確認することで家庭学習の習慣をつけさせた。また考査・長期休暇において問題集を活用しながら自主学習を定着させた。
- ④特に3年生において、全体の補習に加え、志望校ごとに夏から秋にかけて補習を行った。また個別にも指導を行い、志望校合格に向けて学習に取り組みさせた。

(15) [理科]

1.学校運営の中期目標

現状と課題

- 入学以前の理科の知識に大きな差があり、理数に苦手意識をもつ、基礎知識の乏しい生徒が少なくない。よって、科学的な時事問題にも興味を持ちにくいのが現状である。
- 4科とも専門学科であるため、理科の単位数が普通科高校より少なくなり、あらゆる進学先に対応しているとは言い難い。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 効率的な学習を設定するために、基礎学力の定着と発展を図る。
- グローバルな視点から、科学的な問題にも関心をつなげる授業を展開する。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 小テスト・宿題を実施し、基礎事項の理解・定着を図る。
- ② 実験・観察などで、安全に対する意識徹底教育と共に、基礎事項の理解を深める。
- ③ 放課後・昼休み・長期休業中を利用した補習を行い、進学希望者に対しては大学入試レベルの実力を、理解が不十分生徒には基礎学力をつけさせる。
- ④ 視聴覚教材を活用し、環境問題、感染症、エネルギー問題等の時事問題にも、発展的学習として取り組む。

3.本年度の自己評価結果の総括

- ① 理数系科目について苦手意識を持つ生徒が多い中で、小テストや宿題、補習、実験、観察を適宜取り入れながら、興味関心の向上と基礎力の定着に努めた。
- ② 動画、実験、パワーポイントなどを活用することにより、学習内容に興味を持たせ、生徒それぞれの理解度に沿った授業を展開できた。
- ③ 授業で取り上げる話題も身近なものを厳選し、生徒が興味関心を持てるように工夫した。理科

に対する苦手意識はなかなか消えないが、真面目に取り組めば結果につながると感じている生徒も多い。

- ④ 夏季休業や放課後を利用して進学希望者を対象とした補習を実施した。大学入試共通テストの基礎科目に対応できるように補習内容も工夫した。

(16)〔保健体育科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が健康で充実した学校生活を送っているが、運動・健康に対する知識が不足していることで、身体能力向上への意欲に欠ける。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 保健や体育理論の知識を身につけることで、日常生活に応用できるようにする。
 - 知識・技能を身につけることで、生涯を通じて身体の健康を保つ力を育てる。
 - 生涯を通じて健康的な生活を送るための体力を向上させる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- 集団行動・各種競技を通じて、規範意識と協調性を養う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- ① 自らの健康を維持するために保健内容を理解し、基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ② 体育理論の理解をとおして、体力の向上を図る。
 - ③ 正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努めさせる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- ① 実技の授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる。
 - ② 用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、社会性や協調性を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

生徒の協力を得ながらコロナ対策を徹底し、年間を通じて感染予防に努め、安全に授業をおこなうことができた。保健内容を理解したうえで自らの健康を維持し、年間を通じて大きな事故・怪我なく安全に授業をおこなうことができた。授業参加の不十分な生徒には補習を実施し、基礎体力の向上に努めた。補習の実施により基礎体力の維持向上がみうけられた。また、集団行動をするなかで、規範意識・協調性を高め、社会性を身に付けさせることができた。

今後も生涯にわたって健康的な生活が送れるよう指導を続けていきたい。

(17)〔家庭科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生活する力を身につけるために、基礎的な知識のほか、生徒が主体的に実践することが必要である。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 各分野において、基礎的な知識・技能を習得し、それらを実生活と照らし合わせながら、学習への理解を深める。
 - 実践的・体験的な学習を通して、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 生徒が関心を持って取り組めるような題材を取り上げ、家庭生活に応用できる力を身に付けさせる
- ② 実験・実習は、生徒が主体的に取り組むことができるよう内容を工夫する。
- ③ 家庭生活中で生かす実践力の重要性を理解させる。

3.本年度の自己評価結果の総括

各分野において、実生活との関連が持てるような題材を取りあげることができ、授業への関心を高めることができた。ただコロナ禍で実習を実施することがなかなか難しく、コロナ感染症対策を徹底しながら実験・実習を行った。メニューは生徒が家庭生活へ還元できそうなものを選び、実際に生活の中で活用している様子がレポートなどからうかがえた。また、社会の動きに応じて内容が変化するため、情報を収集するとともに、生徒の実態を把握できるようなアンケートなども実施していきたい。

(18)〔芸術科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

書道

○中学校ではほとんど授業がないのが現状であり、「お習字」段階から芸術にまで高めなければならない。そこで、生徒の意識を高め、技術指導をする必要性がある。

美術

○授業数が少なくなり、道具の使い方や自分を表現する仕方が定着せず苦手意識を持つ生徒が増えている。興味関心意欲を高めるためには、その苦手意識を取り除くための指導が必要である。

音楽

○漠然と授業に参加するという現状から、音楽を楽しむという姿勢を持ち意欲的に合唱合奏に参加し、音楽的技術を向上するための指導が必要である。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- 完成度を高め、漢字・仮名・感じかな交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- 音楽に主体的・意欲的に取り組める生徒を増やす。
- 音楽を通して自らの根底に流れている精神を発見し、自らを見つめなす機会を与える。
- 音楽を通して内面的な成長を遂げられるようにする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- ① 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- ② 完成度を高め、漢字、仮名、漢字仮名交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- ① 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- ② 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- ① 音楽に関心を持ち、どのようなジャンルでも意欲的に取り組める生徒を増やす。
- ③ 音楽の基礎を身につけて、読譜力、ソルフェージュ力を増やす。
- ④ 合唱作品に取り組み、自然に協調性を身につける。

3. 本年度の自己評価結果の総括

基礎技術からの自己表現へ、それぞれの個性を出す作品作りが行えた。視覚情報をしっかり取り入れることでスムーズに行える部分が増えているので次年度もさらに深めていきたい。

(19) [1 学年担任団]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

●AI やIoT、インターネットなど、情報技術のめざましい進化や、訪日外国人の増加、未曾有の感染症拡大による社会の変化などから、学校、職業、自分自身の生き方などについての考え方がより一層多様化してきている。

⇒ 多様性を受け入れながらも、集団とのコミュニケーションの必要性を理解し、自分の考えを持ち、主体的に進路選択ができる生徒を育てることが必要である。

●昨今の過度な教育サービスを受け、自主的な挑戦、継続をしない生徒の増加が考えられる。

⇒ 自己責任感、1 歩踏み出す力、大切なときに踏ん張ることができる力を身につけさせる必要がある。提出物、持ち物、スケジュールを自己管理できるよう指導する必要がある。

中期目標【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 情報・英語という 2 分野において専門性を備え、自分の強みを理解し、さらに発展させていこうという意識を育てる。

○ 挨拶、言葉遣い、礼儀を意識して、自主的に行動できる生徒を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 学校が生徒たち一人一人を尊重し、それぞれの個性を伸ばすことを目指す。また、生徒たちも互いを尊重し、多様性を認め合いながら、それぞれが自律した個人となることを目指す。

○ 保護者や関係部署との協力体制を築き、学校を生徒が安心して成長していける場所にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

① 情報と英語の両分野における基礎知識を定着させて、2 分野において次年度以降の発展的な学習につながる学力をつけさせる。

② 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。

③ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。

④ 挨拶、言葉遣い、礼儀の大切さを十分理解させる。

⑤ スケジュール手帳を用意し、提出物、持ち物、スケジュールを自己管理できるように指導する。

⑥ 朝学習を実施し、基礎学力を育成するとともに、早朝から勉強する習慣を形成する。また、時間的余裕をもって登校させ、遅刻の予防に努める。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

① 学年団 3 人で教育相談体制を充実させ、常に生徒 80 人に 3 人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。

② 学校行事やホームルーム活動、教育探究の授業を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。

③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。

3. 本年度の自己評価結果の総括

朝学習の実施により、生指遅刻、教務遅刻ともに減少傾向が見られ、一定の成果が得られたものとする。また、スケジュール手帳を用いた指導も軌道に乗りつつあり、来年度も継続したい。担任団 3 名による相談体制も整い、生徒の悩みや意見を吸収する仕組みも十分に機能したと思われる。担任外の先生方も非常に強力的で大変感謝している。次年度に向けて、情報関係そして英語関係の検定取得のさらなる増加が見られるようにわれわれも指導を行っていきたい。

(20)〔2学年担任団〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

●価値観が多様化する社会からの影響を受けてきた2年生は、特に情報に深い興味関心を持っている多数の生徒と、そのほか他分野に興味を持つ生徒が共存しており、多様な個性・志向の集団となっている。その中で、互いに他者を認めあい、自分たちの個性・能力を伸ばしている生徒もいるが、まだまだその間には溝が残っている。そのことは2クラスしかないクラス間での生徒が抱える比較意識にもつながっている。

- ⇒ 適性や、興味関心を見極めて行う、適切な教育の提供。
- ⇒ 本格的に始まる専門科目の強みを生かし、どう新たな進路実現へと繋げるか。
- ⇒ 多様性を受け入れながらも、集団とのコミュニケーションの必要性を理解し、自分の考えを持ち、主体的に進路選択をはじめとする様々な行動ができる生徒を育てること。
- ⇒ 目標に対して、他との比較ではなく、自分の中で高めていくという意識の醸成。
- ⇒ 来年度の3校合併に向けて、学校を超えた新たな人間関係の構築。

●昨年度、クラス減とコロナ禍によって縮小した学校行事の中で、クラスや団などの集団へ貢献するという意識が生まれにくかった。しかし、個々で見ると、委員活動をはじめ様々な行事活動に積極的に参加しようという意識は感じられる。

- ⇒ 個人の活動意欲を尊重しながら、先輩後輩の両方がいる中での団活動を通じて、社会や集団へ貢献する意識を醸成する。

●昨今の過度な教育サービスを受けてきたことから、自主的な挑戦、継続をしない生徒、ストレス耐性の低い生徒の増加がみられる。

- ⇒ 自己責任感、1歩踏み出す力、大切なときに踏ん張ることができる力を身につけさせる。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 情報・英語という2分野において専門性を備え、自分の強みを理解し、さらに発展させていこうという意識を育てる。
- 挨拶、言葉遣い、ルール、礼儀を意識して、自主的に行動できる生徒を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 学校が生徒たち一人一人を尊重し、それぞれの個性を伸ばすことを目指す。また、生徒たちも互いを尊重し、多様性を認め合いながら、それぞれが自律した個人となることを目指す。
- 保護者や関係部署との協力体制、そして生徒たちとの信頼関係を構築し、学校を生徒が安心して成長していける場所にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 情報と英語の両分野における専門知識を積極的に学び、得意分野を強化しながらも、もう一方の学びも深めて、両分野を活用した進路を主体的に選択していけるようにさせる。
- ② 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。
- ③ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。
- ④ 挨拶、言葉遣い、ルール、礼儀の大切さを十分理解させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 学年団と学科長の4人で教育相談体制を充実させ、常に生徒76人に4人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。
- ② 学校行事やホームルーム活動、委員活動を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。
- ③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。

3. 本年度の自己評価結果の総括

英語、基本情報の資格取得や、夏休みの情報特別カリキュラムを経て生徒たちの専門への意識は向上している。英語に特化した進路を希望する生徒や情報以外のその他文系進路を希望する生徒の中にも、情報をからめた進路を主張する生徒が増えてきており、情報に特化したカリキュラムをとってきた学年としては目指すべき方向に進めているのではないかと。英語・情報をキーとした課外活動に参加する生徒の数も一定数確保できてきており、専門に特化した課外

活動を進路に活用するという実績も重ねられてきている。

(21)〔3学年担任団〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけさせるとともに、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけ、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。また、自ら考えて判断し、行動・表現できる力を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○豊かな人間性を育み、社会を構成する一員であるということを自覚させ、社会に役立つ能力と主体性を持つ人格の形成を目指す。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

① 朝学習を継続するとともにその内容も精査し、基礎学力の定着および専門的で高度な学力の向上をめざす。また、自己実現、希望進路実現のための家庭学習の必要性を認識させ、自ら進んで能動的に、毎日最低2時間程度は家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。

② 生徒一人ひとりの進路の目的を把握し、保護者・進路指導部と十分な連携をとりながら、希望進路実現のための的確な支援を行えるよう配慮する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

① 自主的で良好な基本的生活習慣の確立をめざす。

② ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。

③ 様々な活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。

④ 保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。

3. 本年度の自己評価結果の総括

○ 基礎学力の定着およびそこから繋がる希望進路を実現させるための個々の学習活動の支援を続け、ほとんどの生徒が自己実現のための努力を重ね、一定以上の資格取得も実現できた。進路指導部とも連携しながら、生徒の希望進路先も概ね決定している。

○ 全体的には本校のルールやマナーを理解して守ろうとしているが、中には遅刻指導や生活指導が必要な生徒もいるので、教員間の連携や家庭との連携を十分に取りながら、根気強く改善に向かうよう努めてきた。

○ 学校行事や部活動については、コロナ禍で困難を極めたが、生徒たちが最高学年として主体的にリーダーシップを取って取り組んでくれた。

○ 成績や進路についての懇談も、保護者と連携しながら円滑に進めることができた。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

(1) [校長・教頭・事務長]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 英語科、流通経済科、情報科学科、教育情報科の各専門学科において、大学での専門教育に繋がる指導内容を取り入れる。</p> <p>② 進路保障のための補習体制等の充実、外部講師の積極的活用、資格・検定取得率の向上を図り、進学実績を前年度より向上させる。また、今年度も就職希望者の内定率100%を達成する。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染拡大の現状を踏まえ、海外姉妹校との交流方法を検討し、可能な範囲で継続する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>大学での専門教育に繋がる指導内容を取り入れながら、授業の充実や組織的な補習体制を充実させ、英語科、流通経済科、情報科学科、教育情報科の各専門学科の資格・検定取得率の向上を図る。</p> <p>指標 各検定における取得率の向上</p> <p>英語科：実用英語検定</p> <p>流通経済科：日商簿記検定・全商簿記検定</p> <p>情報科学科：経産省ITパスポート・全工情報技術検定</p> <p>教育情報科：実用英語検定・全工情報技術検定</p> <p>資格取得状況をホームページで公表する。</p>	A
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>学習意欲や進路意識を高め進学実績を向上させるため、外部講師による講演会等や大学見学会等の実施を図る。また、面接指導の充実を図り、今年度も就職希望者の内定率100%を達成する。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の現状を踏まえ、実施形態や実施時期は臨機応変に対応する。</p> <p>指標 前年度より進学実績を向上させる。</p> <p>就職希望者の内定率100%を達成する。</p> <p>進学・就職状況をホームページで公表する。</p>	A
<p>取組内容③【施策6 英語教育の強化】</p> <p>オーストラリアの姉妹校（バイビューカレッジ）への生徒の派遣や姉妹校（パークデールセカンダリーカレッジ）からの訪問団の受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大の現状により厳しい状況である。状況によって、インターネットを活用した交流など可能な範囲で実施したい。</p> <p>指標 取り組みを進め、海外姉妹校との交流状況をホームページで紹介する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、年度当初の計画は変更や延期が余儀なくされた場面も多くあったが、各専門学科の工夫や調整により、きめ細かい指導を行うことができた。特に、昨年度から新設した教育情報科では、情報と英語の両分野においてこれからの時代に対応できる人材育成を目標とした学科にふさわしい成果が見られた。</p> <p>② 突然の臨時休業に対応できるように、またコロナ不安による生徒対応に際し、日頃から学習量や評価に影響がでないよう、各学科・各教科で連携を行うことができた。日々の小テストや課題等の実施を中心に学力保障への施策を充実させながら、家庭学習の習慣をつけるとともに、進路実現に向けた資格取得や面接指導等必要に応じた個別指導に取り組むことができた。</p>

た。結果として、進学希望者は順調に決定しており、就職内定率は今年度も 100%を維持することができた。また、姉妹校との交流については、コロナ禍の状況を踏まえ、オンラインでの交流を実施することができた。

次年度への改善点

次年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえてのスタートとなる見込みにより、さらに府への移管に伴い、生徒1人1台端末導入が予定される中、家庭学習環境の整備と充実に取り組み必要がある。教育情報科のみの生徒となるが、各教科との連携を行い、生徒の家庭学習習慣の重要性をもとに、生徒が通常授業で自主的に学習活動に取り組む場を増やし、それを活かした習慣的な家庭学習への継続ができるように取り組む必要がある。

(3) [教務部]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 組織的な学校運営を行い、新学科、新教育課程の内容を熟考し、社会の変化に対応できる人間を育成する教育活動を推進する。 データシステム部統合により、入試処理・成績処理・調査書作成の各システムを改良するとともに、システム間でもデータの共用化など連動部分を強化する。また選択科目システム・時間割作成システム・名列表作成システムのデータ共通化と操作性の向上をめざす。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 教育活動のための時間確保】 授業時間数の確保を考え、年間行事を計画する。 指標 曜日ごと・時限ごとの実時間数を数え上げ、バランスがとれるように曜日変更などで調整する。	B
取組内容②【施策5 教育活動のための時間確保】 新教育課程の実施に向けての内容を検討する。 指標 第2希望に移る生徒の数を減らすように、選択科目ブロックの調整をする。	B
取組内容③【施策5 教育活動のための時間確保】 追認対象者を減らすとともに、その指導を徹底する。 指標 追認対象者に対し全体説明を行い、その後各教科からの説明を行って複数の立場から指導する。	B
取組内容④【施策5 教育活動のための時間確保】 入試・選択科目・時間割作成・名列表作成システムのデータ一元化と修正をする。 指標 学校全体の校務で扱っているデータを総合的に理解し、効率的に一元化する。	B
取組内容⑤【施策5 教育活動のための時間確保】 成績処理・調査書作成システムの改良をする。 指標 通知票の様式変更、調査書の仕様変更に対応する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①年間を通じて、適切な時間割変更を実施し、授業時間数の確保とともに科目間の授業時間差異を最小限にすることができた。 ②新学科の教育課程について、現在の3学科のそれぞれの強みを継承しつつ、現代のニーズに合った教育課程を編成することができた。 ③選択科目決定の手順の確立、科目の精査などができ、特に滞りなく、科目決定を進めることができた。2, 3年生ほぼ全員が希望通りの選択科目を選べるようになった。 ④追認試験対象者を例年より少なくすることができた。 ⑤新学科開設から3年目にあたり、時間割作成・名列表作成システムの改良を行い、次年度への準備ができた。 ⑥成績処理・調査書作成システムについて、今年度、問題になった点についての改良を加え、運用しやすいものとなった。しかし、府立移管に伴いシステム変更が多くなるため、業務が滞ることがないように、少し準備をすすめている。	
次年度への改善点	
従来の3学科に加えて教育情報科の2年目がはじまったが、本年度同様新3年生の準備をしっかりとし、運用が滞ることがないようにしていきたい。また、来年度は府立高校への移管によるシステムの変更が多くなるのでスムーズに移行できるようにしたい。	

(6)〔健康教育部〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 定期健康診断で精検を指示された生徒への事後措置として、早期受診を促し、学習に支障のないように指導する。</p> <p>② 慢性疾患を持つ生徒が自己管理できるよう定期的に懇談し、心身の安定を図るよう指導する。</p> <p>③ 心の健康に問題を抱える生徒には、個々に応じたアプローチをし、行動化に結び付くような指導を心がける。</p> <p>④ 生涯にわたってよりよく生きるために、健康を維持するための正しい知識を身につけるとともに、余暇の過ごし方も含めた基本的な生活習慣を定着させる。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>定期健康診断での有所見者に対して、個別指導を数回にわたって行い、受診の必要性について理解させたいと、早期受診に結び付ける。</p>	B
<p>指標 優先度の高い所見に対し、積極的に受診を促す。</p>	
<p>取組内容②【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>保護者・主治医・担任・教科担当者・部活動顧問で情報の共有化を図り、体制作りをする。生徒本人とも定期的に懇談する機会を設けて管理状態を相互チェックし、必要に応じて指導を行う。</p>	B
<p>指標 個別の指導計画を作成し、共有化する。</p>	
<p>取組内容③【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>心の健康について、欠席状況を把握し、担任と情報を共有する。心因性の症状が疑われる場合には、保護者やスクールカウンセラーを交えて連携を図り、早期に対応する。</p>	B
<p>指標 一週間ごとに保健室来室状況を担任及び学年に連絡する。欠席が続く生徒には個別の面談を行う。</p>	
<p>取組内容④【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>食、睡眠、自己実現、人・社会との繋がりの重要性を、様々な角度から認識させる機会を作り、行動化・習慣化につながる体験をさせる。</p>	B
<p>指標 配布物・掲示物の工夫。学校保健関係者の協力を得て、講演会・講習会などを計画実施し、全教職員にも周知する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>新型コロナウイルスの感染拡大によって、自己実現の機会を奪われたり、生身の人・社会との繋がりを断ってしまわないように、学校を存続させていくことの大変さを痛感した。</p>	
次年度への改善点	
<p>3校が統合された後、現1,2年生は新校地で進路の実現に向けて学びを重ね深めていくわけであるが、これまでの積み重ねを忘れず、逆境と思わず成長のチャンスにしてほしい。</p>	

(8) [英語科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 効果的な授業案や指導により、英語の運用能力を身につけさせる。</p> <p>② 生徒の希望を実現できる進路指導やガイダンスを行う。</p> <p>③ 組織的な補習体制を組み、生徒の進路実現を支援するため、週1回以上の補習をする。</p> <p>④ 日本文化を発信し、異文化を正しく理解する機会（教材、プレゼンテーション）を増やす。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 英語教育の強化】</p> <p>少人数制のコミュニケーションの授業やコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの授業で、生徒が積極的にコミュニケーションをとることを促す指導案や活動の計画をたてる。オンラインによるアセスメントを行う。Xreading等を活用した多読指導を行う。Google ClassroomやQuizletなどオンラインでの学習支援を用いて自学自習を促す。</p> <p>指標 週に2回程度（英語科）C-NETとの少人数制授業を実施する。英語検定合格者数をホームページで公表する。</p>	A
<p>取組内容②③【施策6 英語教育の強化】</p> <p>組織的な補習体制を組み、進学に向けて意識を高める。より多くの生徒の学力向上をめざして支援する。また進路実現に向け、指導を充実させる。</p> <p>指標 補習は週1回以上。また長期休暇中に集中講座を行う。</p>	A
<p>取組内容④【施策6 英語教育の強化】</p> <p>授業で他国や自国の文化を発表するプレゼンテーションを行う。また、異文化を学ぶ教材を取り入れ、異文化を正しく理解する態度を養う。英語でのプレゼンテーションに加え、効果的なプレゼンテーションができることを目標とする。</p> <p>指標 他国や自国の文化を発表するプレゼンテーションを多く行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>ICT機器やネットへの接続環境の悪い中、情報科学科、流通経済科のご協力おかげで、オンラインでのアセスメントテストや、国際交流活動を行うことができた。Xreadingを活用した多読指導を深めることができた。Google Classroomを活用して課題の配信、提出などを行った。進学や検定取得に向けた、補習を行った。</p>

次年度への改善点
<p>新校舎への移転、府立への移管、観点別評価の実践など、大きな変化の中、協力しながら、柔軟に対応していく必要がある。またGoogle Classroomや来年度生徒へ配布されるChromebookを活用して効果的な教育活動に取り組んでいく必要がある。</p>

(9) [流通経済科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 科で作成した学習ロードマップに基づいた指導の徹底。簿記・英語検定合格率の向上。英語科（全商英検、STEP英検）との連携。</p> <p>② 流通経済科の教員で、受験指導ができる体制を整え、AO入試・専門科推薦への受験指導を徹底する。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>課題研究において簿記検定、情報処理検定、英語検定を中心に、必要な検定を選別し、注力させて合格を目指させる。</p> <p>指標 全商簿記検定と全商情報処理検定のいずれかの1級合格者が前年度を上回るようにする。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>AO、推薦入試方式が多様化し、志望動機・小論文における流通経済科的知識が求められる。個々のきめ細やかな指導が必要になり、科で担当生徒を決め、個別対応できるようにする。</p> <p>指標 AO、推薦入試を前年度以上の受験者数をめざす。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
全商検定3冠以上取得者数は昨年より大幅に上昇した。AO挑戦11名、合格者7名。専門科推薦挑戦7名、合格4名。公募推薦挑戦4名、合格者0。一般入試挑戦者1名、合格者1名であった。	
次年度への改善点	
なし	

(10)【情報科学科】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 本年度はIoTの分野に力を入れるため、3Dプリンタに加え導入したレーザー加工機を使用し、モノづくりの部分について強化する。また、作品提出型の入試に提出できる作品の制作を促す。</p> <p>② 情報分野の国家試験や情報技術検定の受験を促し、合格者数を増加させる。</p> <p>③ 卒業後の進路について、将来の職業やそれにつながる進学先などの具体的なイメージを持たせ、生徒個々の進路希望に応じた個別指導の充実を図る。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>IoTやAIの分野に触れさせるため、ArduinoやRaspberryPiなどのマイコンボードを導入し、python言語を用いた機械学習などを授業に取り入れる。</p> <p>指標 IoTやAIの授業を実践し、生徒の授業満足度を向上させる。</p>	A
<p>取組内容②【施策6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>実習や課題研究など多くの授業で3Dプリンタやレーザー加工機を活用する。課題研究の作品クオリティを高め、作品提出型の入試への挑戦を促す。</p> <p>指標 工作機器を用いた生徒作品を完成させる。 作品提出型での受験生を増加させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>資格取得に向けた補習の実施やeラーニングの提供をおこない、ITパスポート試験や基本情報技術者など国家試験の合格者の増加と情報技術検定の合格率の向上を目指す。</p> <p>指標 情報に関する国家試験の合格者数が前年度を上回るようにする。 情報技術検定の各級の合格率が前年度を上回るようにする。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 キャリア教育の推進】</p> <p>多様化する進路実現の方法を踏まえ、進路ガイダンスやディスカッションを通して具体的な進路の意識を高めさせる。また、情報科学科の全教員で個別指導を積極的におこない、各生徒の事情・希望に応じた進路を実現させる。</p> <p>指標 年度末において、進路未決定の生徒を減少させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>課題研究では、工作機器を用いた作品やVRゴーグルを用いた作品なども含め、クオリティの高い作品を完成させた。また、IoTやAIの内容を取り入れた授業を展開し、生徒からの授業満足度が上がった。資格取得においては、3年生でのITパスポート試験合格者が7名と前年度より増加した。進路指導では、福知山公立大学や国立高専に合格するなど、多くの生徒が希望の進路を実現させた。</p>

次年度への改善点
<p>本年度で情報科学科のカリキュラムは終了するが、教育情報科の情報分野において、作品制作や資格取得の良い流れを引き継ぎ、さらなる発展を期待している。</p>

(11) [教育情報科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 1年生では、パソコンを無理なく扱える情報リテラシーを習得する。また、ビジュアルプログラミングから始め、楽しみながらプログラミングやハードウェアの基礎的な知識を習得する。</p> <p>② 2年生の情報分野では、既存のアプリケーションやコンテンツを、生み出す側としての知識を深め、主体的に物事を考える力を付ける。</p> <p>③ 主体的、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成する。日常的な話題や社会的な話題について、話し手や書き手の意図を的確に理解したり、情報や考えを適切に表現できる基礎的な力を身につける。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>基本的なパソコン操作やタイピングを習得し、Office系ソフトを使いこなすリテラシー能力を習得する。また、ビジュアルプログラミングからC言語に発展させ、情報技術検定の取得を目指す。</p> <p>指標</p> <p>P検3級の合格率を100%にする。 情報技術検定2級の合格率を、昨年度以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【施策6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>日々の授業や、夏期講座のハッカソンや映像制作において、作品を完成させるだけでなくコンペなどを実施し、他者評価を得て自己満足にならないようにし、3年生の制作活動へつなげる。</p> <p>指標</p> <p>生徒が主体的に、個人やグループで作品を完成させる。</p>	A
<p>取組内容③【施策6 英語教育の強化】</p> <p>少人数制のコミュニケーションの授業で、生徒が積極的にコミュニケーションをとることを促す指導案や活動の計画をたてる。多読指導を行うことで、英語に触れる機会を充実させるとともに、言語や文化に対する理解を深める。GTECやオンラインによるアセスメントを行い、4技能全体の伸長を目指す。</p> <p>指標</p> <p>週に2回程度CNETとの少人数制授業を実施する。英語検定合格者数をホームページで公表する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>P検の合格率が95%、情報技術検定の合格率が27%と目標を達成することができなかった。コロナ禍において欠席が多くなったことが理由で、合格点に届かない生徒が多く見られた。</p> <p>夏期講座として、校内でのハッカソンや映像制作を初めて開催したが、主体的なグループでの制作活動や発表が行われ、生徒からの満足度が高い内容となった。ハッカソンについては関西大学で開催していただいていた内容を、西高バージョンとして再現し、実りの多い夏期講座となった。</p> <p>1年生は週4回、2年生は週3回、CNETとのチームティーチングで授業を行い、英語を使ってコミュニケーションを取る機会を確保した。姉妹校とのオンライン交流、X-readingを使った多読活動、希望者対象で実践したオンラインでの国際交流活動、メールを使った姉妹校とのペンパル活動、日本文化を英語で紹介する「歴史街道」などを通して、英語や異文化に対する</p>

理解を深めることができた。

次年度への改善点

1年生は、検定合格率は達成できなかったが、一定の情報リテラシーはみについている。次年度、よりきめ細かい指導を行い、生徒全員が情報技術の習得を目指していく。2年生は夏期講座以外の授業でも専門的な情報技術を習得し、作品制作に没頭する生徒が多く見られた。総合的な探究の時間も含め、進学につながる情報分野の指導を続けていきたい。

イングリッシュ・セミナーや Global Link などの授業や、授業外での様々な国際交流活動、英語暗唱弁論大会への参加を促す中で、英語学習への動機づけや言語・異文化への理解を深めることができた。また、実用英語技能検定にも多くの生徒が挑戦し、合格へ向けて組織的な補習を行った。次年度は、校舎移転に伴う大きな変化の中、これまで通りのきめ細かな指導を行うためには、より一層の工夫が求められる。

(12)〔国語科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 漢字や現代用語、古文単語などの語彙の学習により、基礎的な国語力の向上をめざす。</p> <p>② 読解力と共に論理的思考力・表現力を身につけさせ、ものの見方・考え方を深める。</p> <p>③ さまざまな作品・文章に触れることで、想像力を養い言語感覚を磨いていく。</p> <p>④ 生徒の進路希望状況に応じて、個別指導や補習を実施する。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>漢字問題集を長期休業中の課題として学習し、提出させる。</p>	B
<p>指標</p> <p>範囲を定め、定期的に問題集に基づいた小テストを行い、各定期考査にも出題して定着度を確認する。</p>	
<p>取組内容②【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>教材を読み、学んだことをもとに自分の考えを文章にまとめさせる。</p>	B
<p>指標</p> <p>各定期考査、小テスト、提出物等で確認する。</p>	
<p>取組内容③【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>各種コンクール等に応募する機会を与え、さまざまな図書に触れたり創作活動をしたりすることで表現力を身につけさせる。</p>	B
<p>指標</p> <p>休業中の課題として読書感想文を課し、短歌・俳句などの創作活動にも取り組む。</p>	
<p>取組内容④【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>生徒の進路希望状況に応じた小論文指導や、進学者を対象とした補習を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>昼休みや放課後を利用した個別指導や、夏季休業中等に進学補習をおこなう。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>小テストの定期的な実施や学習課題に取り組みさせることで、基礎的な力を養うことができた。3年生対象に進学補習・小論文補習を実施し、希望する進路への合格を目標として学習に取り組みさせ、成果も上がった。各種コンクールにも積極的に応募して、入賞する生徒も出ており、自信を持たせることができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>課題や小テストへの取り組みにより、学習の習慣がついている生徒も多い反面、自分ひとりでは課題に取り組むことができず、提出できない生徒も一定数みられる。生徒の個性に応じて臨機応変な指導が今後は必要となる。次年度以降の課題としたい。</p>	

(13)〔地歴公民科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上</p> <p>① 各必修科目において高校での地歴公民学習への導入と動機づけを行う。</p> <p>② 2年の「世界史A」の授業において、世界の近現代の歴史を我が国の歴史との相関を踏まえながら、現代社会の諸問題の原因等に着目して考察させる。</p> <p>③ 3年の「日本史A」の授業において、我が国の近現代の歴史を世界の歴史と関連づけながら、現代社会の諸問題に着目して考察させる。</p> <p>⑤ 演習等の選択科目の授業において、「地歴公民科」を大学入試の受験科目とする3年生を対象として、放課後や夏季休業中を利用して、補習を実施し授業開始が遅れた部分を補い共通テストにも対応する。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 教育活動のための時間の確保】</p> <p>小テストなどを通じて、中学校での基礎的知識の確認を行う。また、白地図(日本地図・世界地図)を利用した作業も行う。</p> <p>指標 各学期を通じて行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策3 社会的包摂と現代的・社会的課題についての学習】</p> <p>新聞やインターネットを利用しながら、最新のニュースを取り上げて、授業に生かす。また、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことに対応して、政治的教養を育む教育を行う。</p> <p>指標 社会で問題となる事象が起きた時に、それを取り上げる。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>近代社会が成立し発展する過程を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて考えさせ、ものごとを実証的な考察によってとらえる歴史的思考力を身に付けさせ就職・進学ともに対応できる能力を養う。</p> <p>指標 ともすれば堅苦しくなりがちな授業に、必要に応じてエピソードや逸話、また視聴覚教材等を取り入れながらすすめる。</p>	B
<p>取組内容④【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>放課後や夏季休業中を利用して補習を実施し、地歴公民科を利用した私立大学の一般入試や共通テストでの高得点をめざす。</p> <p>指標 私大一般入試や共通テストを利用する生徒を昨年度より増やし10人程度にまで増やす。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>施策5については、補習を行うなど学習機会を増やし、共通試験では高得点をマークする生徒も出るなど効果が出ている。18歳成年の話題が生徒間でも随所に見られ、教育効果の高い授業を提供できているものと分析している。</p>	
次年度への改善点	
<p>より多くの生徒に効果を波及しなければならないことや科目の再編にともなう変化に応じながら効果的な授業の展開が求められている。教える知識量とその知識をいかに使っていくべきかという知恵を伸ばしていく活動が必須であると考えられる。</p>	

(14) 数学科

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 机間指導や小テスト等で生徒の理解度を把握し、授業内容に反映する。</p> <p>② 学習の動機づけとなる話題や教材を生徒に提示する。</p> <p>③ 復習を習慣づけるため、できるだけ頻繁に課題を与える。また問題集を有効に利用し、各定期考査後または長期休業後に解いたものを提出させ、自主学習の習慣をつけさせる。</p> <p>④ 理解度や進路希望等を考慮し、放課後や長期休業中に補習等を行う。</p> <p>⑤ 看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、年間を通じて目的を達成する時期まで補習を行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 理数教育の充実】</p> <p>生徒の理解度は学科によっても異なるので、個々に理解度を把握しながら、授業内容を充実させていく。</p> <p>指標 考査成績について、昨年度との比較および学科間の比較をしていく。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 理数教育の充実】</p> <p>数学科内で、授業形式・教材や生徒の状況について、連携しながら進めていく。</p> <p>指標 共有できるものはデータとして蓄積していく。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 理数教育の充実】</p> <p>単元ごと、考査ごと、長期休業ごとに、問題集や課題プリントなどの課題を与えて、確認し指導する。</p> <p>指標 考査ごとや長期休業ごとに、課題を提出させて確認し指導する。</p>	B
<p>取組内容④【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>成績不振生徒に対して、考査後の補習や長期休業中の補習を行う。</p> <p>また希望生徒に対して、進路希望に応じて個別または進路別に補習を行う。</p> <p>指標 成績不振生徒の補習や課題提出を考査ごとに実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策5 理数教育の充実】</p> <p>看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、早い時期から進路決定するまで補習を行い、志望校への合格をめざす。</p> <p>指標 対象校への志望者の全員合格をめざす。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>授業で生徒に理解させることを第一に考えながら、日々課題に取り組ませ、宿題の提出や小テストの活用により家庭学習習慣の定着を図った。成績不振者には、定期考査前後を中心に適宜補習も行った。三年生に対しては夏から秋にかけて志望校ごとに補習を行った。また授業の中でも受験対策を取り入れたり、個別に受験向けの指導も行い、最後までサポートした。</p>

次年度への改善点
<p>日々の課題にじっくり取り組まず、形式的に終わらせてしまっている生徒が増えてきているように感じる。学習目的と方法から再度考えさせ、家庭学習がより習慣づくような指導をしていきたい。またその指導の中で、早くから受験に対して意識し行動できるような生徒を増やしたい。</p>

(15)〔理科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 小テスト・宿題を実施し、基礎事項の理解・定着を図る。</p> <p>② 実験、観察などで、安全に対する意識の徹底を教育すると共に、基礎事項の理解を深める。</p> <p>③ 放課後・昼休み・長期休業中を利用した補習を行い、進学希望者に対しては大学入試レベルの実力を、理解が不十分な生徒には基礎学力をつけさせる。</p> <p>④ 視聴覚教材を活用し、環境問題、感染症、エネルギー問題等の時事問題にも、発展的学習として取り組む。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 理数教育の充実】 小テスト・宿題を課し、基礎事項の理解・定着を図る。	B
指標 単元ごとに、1週間に1度以上実施する。	
取組内容②【施策5 理数教育の充実】 実験・観察をする。	B
指標 安全教育を基盤に行う。	
取組内容③【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】 個々の状況に応じて、補習を実施する。	B
指標 進学用補習は主に夏季休業中に実施する。基礎学力定着は各定期考査前後や必要に応じて、放課後等に実施する。	
取組内容④【施策5 理数教育の充実】 時事問題に取り組む。	B
指標 視聴覚教材を活用する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
理系科目について苦手意識を持つ生徒が多い中で、小テストや宿題、補習、実験、観察を適宜取り入れながら、興味関心の向上と基礎力の定着に努めた。授業に取り上げる話題も身近なものを選び、興味関心を持てるように工夫した。苦手意識はなかなか消えないが、真面目な取り組みが結果につながると感じている生徒も多い。

次年度への改善点
理系進学希望者に向けての補習の充実と進学用カリキュラムの検討。

(16)〔保健体育科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 自らの健康を維持するために保健内容を理解し、基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <p>② 体育理論の理解をとおして、体力の向上を図る。</p> <p>③ 正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努めさせる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>保健の授業をとおして、身体のしくみや健康寿命を延ばすための知識を身につけさせる。</p> <p>指標 各定期考査において、学習の理解度を確認する。</p>	B
<p>取組内容②【施策7 子どもの体力・運動能力向上のための取組みの充実】</p> <p>体育理論の授業をとおして、運動・スポーツの文化的特徴、学び方、豊かなスポーツライフの設計等の知識を理解させ、より効果的に体力向上が実現できるよう指導する。</p> <p>指標 年間をとおして保健体育の教科書・体育編の授業を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 子どもの体力・運動能力向上のための取組みの充実】</p> <p>ストレッチの重要性について理解させ、怪我の予防に努めさせる。</p> <p>指標 ストレッチが正確に実践されているか、毎時間確認する。</p>	B
<p>取組内容④【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>睡眠・食事の重要性を理解し、自主的に生活習慣を整えさせ、欠席・遅刻・見学することなく授業が受けられるよう指導する。</p> <p>指標 授業のはじめに欠席・遅刻・見学者の状態や体調確認を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策7 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実】</p> <p>スポーツテストを実施し、自己の体力を把握させることで、基礎体力の向上・維持を図る。準備運動・補強運動を正確に行うよう指導する。水泳・持久走の補習を徹底して行うことで、基礎体力の向上を図る。</p> <p>指標 準備運動・補強運動の様子を観察する。スポーツテストの記録を比較し、体力の向上を確認する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>健康に関する知識の習得により、自己の健康管理への意識を高めることができた。コロナ自粛による基礎体力不足を補うために、補習の実施を充実させ、運動量の増加に努めた。準備運動とストレッチを正確に実施することで、けがの予防に努めた。</p>

次年度への改善点
<p>生涯にわたり健康で充実した生活を送るための知識を身に着けることで、基本的な生活習慣の確立と、基礎体力の維持向上を目指す。体力の低下が著しく、体育としての体力の向上には重点的に努めたい。</p>

(17) 〔家庭科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>④ 生徒が関心を持って取り組めるような題材を取り上げ、家庭生活に応用できる力を身につけさせる。</p> <p>⑤ 実験・実習は、生徒が主体的に取り組むことができるよう内容を工夫する。</p> <p>③ 家庭生活中で生かす実践力の重要性を理解させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>日常生活において実践できるような身近な教材を取り入れ、イメージしやすい状況をつくり、生徒が家庭生活に応用できる力を付けさせる。</p> <p>指標 各定期考査やレポートなどにより学習の理解度を図る。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>実験・実習を通して知識や技術の修得に加え、計画や意思決定、結果の分析などができるような内容にし、生徒同士のコミュニケーションを通して学習への理解をさらに深めさせる。</p> <p>指標 家庭基礎では年3回程度、生活実践では年8回程度の実習・実験を実施し、生徒が積極的に取り組む機会をつくる。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>家庭生活中で活用できる実践力を身に付けさせ、生活力の重要性を理解させる。</p> <p>指標 各定期考査やレポートなどにより学習の理解度を図るとともに、実践的な力を実習で身に付けさせる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①各分野において、実生活との関連が持てるような題材を取りあげることで、授業への関心を高めることができた。</p> <p>②実験・実習は、コロナ禍のため実習が行えない時期が多い中、感染症対策をしながら行った。生徒が主体的に取り組めるような題材を選ぶことができ、学習への理解を深められた。</p> <p>③身近な題材を取り入れることで、家庭生活の中で実践する生徒が多くみられた。実習の内容にアレンジを加えて実践する姿もみられた。</p>

次年度への改善点
成人年齢の引き下げなど社会が変化することで家庭生活への影響は大きい。日常生活との関連をふまえ、より将来において生徒たちが実生活中で活用できるような内容を取り入れていきたい。

(18)〔芸術科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 書道 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。</p> <p>② 書道 完成度を高め、漢字・仮名・漢字仮名交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。</p> <p>⑥ 美術 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。</p> <p>⑦ 美術 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。</p> <p>⑤ 音楽 音楽に関心を持ち、どのようなジャンルでも意欲的に取り組める生徒を増やす。</p> <p>⑥ 音楽 音楽の基礎を身につけて、読譜力、ソルフェージュ力を増やす。</p> <p>⑦ 音楽 合唱作品に取り組み、自然に協調性を身につける。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 筆と半紙だけでなくいろいろな用具・用材を使って興味をもたせつつ、日常生活で使えるものから古典的なものへと多種にわたる書道を指導する。</p> <p>指標 学期ごとに2点以上の作品を完成させる。また、学期ごとに内外部の展覧会に応募・出品する。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】 筆と半紙だけでなくいろいろな用具・用材を使って個性的なものにしつつ、さらに外部の展覧会に出品することを目標にすることで作品をまとめる力を身につける。</p> <p>指標 学期ごとに1度は外部の展覧会に出品する。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 ・それぞれの課題に応じた作品を作り技術を身につけていく。 ・多くのものに触れて感性を磨く。</p> <p>指標 学期ごとに約2作品を制作完成させる。スケッチブックが3学期にはすべて埋まるように感じたもの描きとめていく。</p>	B
<p>取組内容④【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】 ・作品を学校外で発表することで意欲を持たせ完成度をあげる。 ・制作だけではなく、展覧会を見に行ったり、美術に関することを調べたりして興味を持たす。</p> <p>指標 文化祭、芸術祭に選択生徒の半数が展示する。レポートを3学期までに1つは書き上げる。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策2 音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出】 交響曲、協奏曲などいろいろな音楽の鑑賞をする。オーケストラの奏でる音色や、立体的な音楽構造を感じ取る。</p> <p>指標 授業回数：2時間 頻度：1カ月に2作品程度 取り組む人数：個人</p>	B
<p>取組内容⑥【施策2 音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出】 五線譜の理解、リズムの理解等に取り組む。</p> <p>指標 授業回数：毎回 頻度：1学期・2学期中 取り組む人数：個人</p>	B
<p>取組内容⑦【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 自分たちでグループを組み、合奏や合唱など自由な編成で音楽活動に取り組む。</p> <p>指標 授業回数：10回 頻度：2学期中 取り組む人数：2～10人程度</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>基礎から行いつつそこから芸術として持っていく創意工夫をそれぞれ行った。同時に生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう校外での発表の場を設け行った結果意欲向上がみられる。視覚的情報を取り入れやすくなったため、想像力を補助することや作品を見直し達成感を味あわせることが出来た。</p>

次年度への改善点
<p>今後とも発表の場を維持していきつつ、個々の状態を把握しそれぞれの理解力が深まっていくよう視覚・聴覚からのアプローチを図っていく。</p>

(19) [1 学年担任団]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>⑤ 情報と英語の両分野における基礎知識を定着させて、2分野において次年度以降の発展的な学習につながる学力をつけさせる。</p> <p>⑥ 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。</p> <p>⑦ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。</p> <p>⑧ 挨拶、言葉遣い、礼儀の大切さを十分理解させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>情報、英語の教科担当者と連携して、専門教科2分野の遅れがある生徒への補習体制を整備する。定期考査ごとに対象生徒を把握し、フォロー体制を作り学年終了時点で2分野への苦手意識を減らす。</p> <p>指標</p> <p>定期考査ごとにフォロー対象になる生徒を減らしていけるようにし、学年終了時点でフォロー対象生徒を1割以内に収める。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>3人の担当でサポートし、生徒各々の適性、興味関心を見極めて、課外活動などへの参加を促す。</p> <p>指標</p> <p>入学後、適性、興味関心を確認し、信頼関係構築のために、2学期末までに学年団で全員と面談を行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>スタディサポートを有効的に活用するために模擬テストの事前、事後指導をデータに基づき綿密に行う。さらに進路行事などを通して専門教科以外の普通教科に関しても大切さを認識させる。また、朝学に学年全体で取り組めるように、交代で教員の朝学当番を設置し、毎日の習慣づけを行う。朝学を活用し、苦手分野の克服を図る。</p> <p>指標</p> <p>スタディサポートの事前事後説明会を行う。 スタディサポートの事前課題を丁寧にチェックして、完全な提出状況を作る。 毎朝、全員が8:25に着席して、学習体制に入っている状態を作る。 毎日、全員が朝学の提出を行うようにする。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>登下校時の挨拶、教員に対する言葉遣い、他人に対する礼儀について、学年全体でも、個別でも、機会があるごとに説明し、理解を促していく。</p> <p>指標</p> <p>多くの生徒が挨拶、丁寧な言葉使い、礼儀について自主的に行動できるようになる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全体的に素直な生徒が多く、教員の指導をよく聞き、向上心をもって諸活動に取り組んでくれた。担任団によるサポート体制もしっかり機能した。朝学習の効果として遅刻の減少が見られた。</p>

次年度への改善点
<p>検定の取得率の向上。スケジュール手帳を用いた指導の継続。</p>

(20)〔2学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>⑨ 情報と英語の両分野における専門知識を積極的に学び、得意分野を強化しながらも、もう一方の学びも深めて、両分野を活用した進路を主体的に選択していけるようにさせる。</p> <p>⑩ 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。</p> <p>⑪ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。</p> <p>⑫ 挨拶、言葉遣い、ルール、礼儀の大切さを十分理解させる。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>英語科・情報科学科と連携した積極的な資格取得。</p> <p>指標</p> <p>各科の検定担当者と打ち合わせをおこない、生徒の検定意識を高める。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>4人の担当でサポートし、生徒各々の適性、興味関心を見極めて、課外活動などへの参加を促す。</p> <p>指標</p> <p>学年団全員で全生徒と面談を実施し、適性、興味関心を確認し、委員活動をはじめとする課外活動に50%以上の生徒を関わらせる。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>スタディサポートを有効的に活用するために模擬テストの事前、事後指導をデータに基づき綿密におこなう。さらに進路行事などを通じて専門教科以外の普通教科に関しても大切さを認識させる。そのために理科・国語・数学科との連携をおこなう。また、朝学に学年全体で取り組めるように、交代で教員の朝学当番を設置し、毎日の習慣づけを行う。朝学を活用し、苦手分野の補強を図る。</p> <p>指標</p> <p>スタディサポートの事前事後説明会を行う。</p> <p>スタディサポートの事前課題を丁寧にチェックして、完全な提出状況を作る。</p> <p>進路行事の中で普通教科への意識付けを盛り込んでもらう。</p> <p>理科・数学・国語科と連携した取り組みを行う。</p> <p>毎朝、全員が8:25に着席して、学習体制に入っている状態を作る。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>登下校時の挨拶、教員に対する言葉遣い、集団の中でのルール、他人に対する礼儀について、学年全体でも、個別でも、機会があることに説明し、理解を促していく。</p> <p>指標</p> <p>多くの生徒が挨拶、丁寧な言葉遣い、ルール、礼儀について自主的に行動できるようになる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>7割の朝学習参加率を維持できた。英語、情報、化学など担当者が授業との併用を進めてくれたことにより、真面目な生徒が取り組もうという意思につながった。専門に特化した課外活動、検定取得に取り組ませること、進路と連携した進路行事などにより、進路意識は高まっている。</p>	
次年度への改善点	
<p>さらに効果的な朝学習の活用。夏休み前までに進路を明確に決定させて、多くの生徒が、専門をいかした受験に挑戦していく。</p>	

(21)〔3学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 朝学習を継続するとともにその内容も精査し、基礎学力の定着および専門的で高度な学力の向上をめざす。また、自己実現、希望進路実現のための家庭学習の必要性を認識させ、自ら進んで能動的に、毎日最低2時間程度は家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。</p> <p>② 生徒一人ひとりの進路の目的を把握し、保護者・進路指導部と十分な連携をとりながら、希望進路実現のための的確な支援を行えるよう配慮する。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>引き続き朝の学習時間を設定し、英語、国語、時事関連、SPIや専門学科の基礎知識の定着を図る。基礎学力の不足については、自主的に放課後等を利用した学習や家庭学習をおこなう習慣を身につけさせるとともに、生徒個々の進路状況を把握し、必要に応じて指導も行っていく。</p> <p>指標 学習内容の8割以上の理解。提出物の確実な提出。毎日2時間程度以上の家庭学習時間の確保。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>希望進路実現に向けて知識や学力を高めるために、進路指導部と連携し、講話等の指導を適宜行う。保護者や進路指導部と十分な連携をとりながら、的確な支援を行う。1学期中に生徒全員との進路に関する懇談を実施し、生徒一人ひとりの進路希望を実現させる。</p> <p>指標 生徒全員の希望進路が実現できるように指導する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>全体的には本校のルールやマナーを理解して守ろうとしているが、中には遅刻指導や生活指導が必要な生徒もいるので、教員間の連携や家庭との連携を十分に取りながら、根気強く改善に向かうよう努めてきた。また学校行事や部活動については、生徒たちが最高学年として主体的にリーダーシップを取って取り組んでくれた。成績や進路についての懇談も、保護者と連携しながら円滑に進めることができた。</p>	

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

(1)【校長・教頭・事務長】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 挨拶の励行、皆勤・精勤者の増加、遅刻者の減少を図り、前年度より向上したことを検証する。</p> <p>② 創立100周年を迎え、再編統合による西高校として最後の年にあたり、在校生をはじめ、保護者や地域の皆さんにも、西高校の様々な情報提供の機会を増やし理解と協力をいただき、新高校への引き継ぎを推進する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>生徒指導部・各学年担任団・各学科・各教科の協力体制によって、登校指導や挨拶運動の実施、授業内での道徳教育等の取り組みを実施し、アンケート調査等により改善率を検証する。</p> <p>指標 今年度の皆勤・精勤率50%以上。1日当たり平均遅刻者数5人以下。</p>	C
<p>取組内容②【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>各学科・各分掌・各学年・各教科の協力体制により、学校での学習活動の様子の広報に努める。</p> <p>指標 西高校のWebページでの情報提供を活性化し、週2回以上の更新に努める。また、新型コロナウイルス感染拡大の現状を踏まえながら、検討を進め、学校行事である体育祭、文化祭、授業参観といった場面において、外部公開の機会を可能な限り継続する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ不安による生徒対応もあり遅刻者指導は困難であった。</p> <p>②年度当初の計画は、変更や延期が余儀なくされたが、十分な感染防止対策を行いながら、生徒と教員が努力と協調という強みを活かし、生徒会行事を含めた学校行事を次々と実施し実現することができた。特に、100周年記念行事は、学校全体を通して取り組むことができた。</p> <p>③再編統合ならびに府への移管に伴い、現在の堀江地域で最後の教育活動を展開できた大阪市立西高等学校として、さらに英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科の4つの専門学科が学習活動できた最後の年にあたり、全ての教育活動の内容や様子を、保護者や地域の皆様方に学校ホームページを通して情報提供することができた。</p>

次年度への改善点
<p>次年度より、再編統合ならびに府への移管に伴い、大阪府立桜和高等学校の校地において、教育情報科の生徒のみとなる大阪府立西高等学校として、新たな教育活動がスタートする。同じ校地で学ぶ他校の生徒と共に、様々な学校行事に取り組まなければならない。また、継続して様々な教育活動の内容や様子を、新たな形として学校ホームページ等で情報提供に取り組む必要がある。今後も、大阪市立西高等学校の伝統を継承し、情報提供を期待したい。</p>

(2) [国際交流]

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
取組内容①【施策6 多文化共生教育の推進】 姉妹校 Parkdale 校との連携内容の確認と改善に努める。	B
指標 再編統合・新校に向けて、連携内容を確認し、効果的な交流の充実を模索する。	
取組内容②【施策6 多文化共生教育の推進】 本年度で最後となる Bayview 校との連携について、理想的な形で終結をする。	B
指標 次年度から、市立高校が引き続き連携をすることを踏まえ、橋渡しがスムーズにできるように取り組む。	
取組内容③【施策6 多文化共生教育の推進】 市・府など国際交流事業に意欲的に参加し、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	B
指標 国際交流センターなどと連携をして、生徒が多文化理解を深めることができるように取り組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

Bayview 校との姉妹校提携の終結やいちりつ高校への引継ぎがスムーズに進んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で困難となった姉妹校 2 校との交流も文通やオンラインの授業を工夫して乗り切った。また、フランス大使を迎えての講演会や別な無の大学生、来年度本校訪問予定のイギリスの高校生とのオンライン交流会も成功した。Pardale 校との学校間の姉妹校協定書の見直しを行

次年度への改善点

桜和高校と姉妹校との提携協定とその内容や条件の詳細を検討し、ヴィクトリア州へ提出する書類の作成が必要である。また、新型コロナウイルス感染症の影響によって滞っている相互の姉妹校訪や留学についての内容を 3 校+桜和高校での取り組みとして 4 校が協力して検討・調整する必要がある。

(4) [生徒指導部]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 遅刻0の日の増加をめざすとともに、服装、頭髪、言動の乱れをなくす。また、挨拶が1日の始まりとなるよう挨拶の励行を行う。</p> <p>② 全体集会や講演会で人権を尊重する大切さを訴え、他者を思いやる心の育成を図るとともに警察と連携し交通規則の順守、いじめや差別を許さない意識向上をめざす。</p> <p>③ 生徒指導部と全校生徒とのコミュニケーションをできるだけ密にとるように努め、事件が起こってからでの指導ではなく、事件を起こさないように事前の指導に力を注ぐ。問題行動の実態把握と未然防止に取り組む。また、SNSの危険性を伝え、利用にあたってのモラルの向上をめざす。</p> <p>④ 1年生の部活動加入率7割以上をめざす。また団活動、部活動を通じ学年を超えた協力関係を築き、リーダーシップや自主性、連帯感を養う。</p> <p>⑤ 生徒会執行部と各クラスの連携を深め、学校行事の運営に関わっているという自覚や責任感・充実感を持たせる。裏方で行事を支えてくれている人がいることを理解し、感謝の気持ちを持てる生徒を育てる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>登校時の教職員全員による校門指導、昼休みの校内巡視指導、始業式・集会時の服装・頭髪検査と学期を通じた継続指導、携帯のマナー指導、遅刻生徒への面談指導、早朝登校指導、などにより道徳心・基本的生活習慣を身につけさせる。</p> <p>指標 遅刻者数1日当たり平均5人以下を目標に、基本的生活習慣の定着を目指す。</p>	C
<p>取組内容②【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>毎月1回、学年と生徒指導部で連絡会を開催し情報交換を行い、生徒の状況を把握、いじめや問題行動を防止する。始業式、終業式において人権を尊重する大切さを訴える講話を行う。警察と連携し1年生への交通安全教育の開催、2年生へ薬物乱用防止教育など自己と他者の心身を尊重する意識を高める。</p> <p>指標 いじめ・いやがらせ・交通事故0、安心して平和な教室、学校を目指す。</p>	B
<p>取組内容③【施策1 いじめ・問題行動に対応する制度の活用】</p> <p>日々の生徒指導部と生徒とのやりとりの中で、一方通行の指導にならないように心がけ、生徒の気持ちを聞く余裕を持って指導にあたる。また、生徒指導部会等において他校と情報交換し問題行動の実態把握、未然防止に取り組む。</p> <p>指標 長期欠席者や、欠席・遅刻の増加傾向にある生徒の把握とその生徒一人一人に対応するよう最善をつくす。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>合格者説明会、入学式当日の勧誘活動、部活動紹介を通じて体験入部を奨励する。月1回開催する部長会議においてリーダーシップを育成する。結団式を行うことで団活動の決意をかため、学年間の交流を深める。団長、生徒会役員のリーダーシップを育成する。年度内に次年度に向けたリーダー研修会を開催する。全生徒が部活動、団活動、学校行事へ自主的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>指標 学業成績では見えない生徒の長所の発掘・開発。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>生徒会定例会における計画立案指導、各種委員会の活動指導などにより、自主的な生徒会活動を実現する。行事ごとに、生徒会執行部等の活動を理解させる。風紀委員の早朝挨拶運動を継続する。</p> <p>指標 年度ごとに特色のある計画を立案し、実行する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う対応の中で、生活リズムが乱れ、遅刻する生徒が増える現象に歯どめが効かず例年にない遅刻者数となった。しかしながら、皆勤生徒もいることから遅刻という観点からは新型コロナウイルス感染症の影響は一部にとどまると分析できる。</p> <p>服装頭髪については、近年の強制を伴わない指導のあり方から懇談をしながら、改善指導に努めてきた。結果として改善までに日数を要するようになった。</p>

次年度への改善点
<p>令和型の学校教育のあり方を考える中で、生徒指導のあり方も同時に見直されて行かなければならず、教育効果の分析もより丁寧に行っていかなければならないと感じている。</p>

(5)〔進路指導部〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 新型コロナウイルスによる混乱の中、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細かな進路指導・面談・補習等を実施し学力向上をサポートする。</p> <p>② 進路説明会を実施し、進学に対する目的・目標や職業意識等を育成する。</p> <p>③ 経済悪化による求人数減少が予想されるが、指定校・公開求人でも毎年内定をいただいている企業やハローワークと連携を密にしながら就職実績を継続させる。</p> <p>④ 高大連携によって、生徒の学習意欲や目的意識を高め、適切な進路選択を支援する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>進路面談を通じて生徒一人ひとりの希望を正しくとらえ、より適切な情報の提供・指導のもと進路実現を推進する。また、外部模擬試験の案内をおこない、客観的な学力の把握に努めさせる。</p> <p>指標 面接練習や進学書類の指導では、本年度立ち上げた進路委員会にお手伝いいただき個別指導の充実を図る。進学希望者には外部模擬試験の受験を勧める。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>各学年、様々な内容の進路説明会を実施し、学校や企業から講師を招くなど、進学・就職に関する各種説明会を行う。進学では昨年度よりAO入試をはじめ入試制度が変更されるので、名称・実施時期の変更など理解の徹底を図る。</p> <p>指標 3年生には総合型選抜（旧AO入試）・小論文対策講座・指定校推薦・大学共通テスト・看護医療系・公務員受験対策などの説明会を随時実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>ハローワークや労働局主催による就職ガイダンス、応募前職場見学・企業研究などを通じて職業観・勤労観を身につけさせる。</p> <p>インターンシップ、キャリア教育等を実施し、職業観の育成を系統的・継続的に行う体制を整える。</p> <p>指標 新型コロナウイルスによる経済悪化の中、これまで就職している企業を中心に企業訪問を積極的におこない、これまで通り就職希望者内定率100%をめざす。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>高大連携事業を積極的に活用する。</p> <p>大学の先生を招き、特別講義を通じて大学で学ぶことの意義を見出し、生徒の学習意欲や目的意識を高める。</p> <p>指標 特別講義を開催し、多くの生徒の参加を促す。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 3年生の進路指導に対しては個人面談から始まり、志望理由書や小論文の添削・面接練習・応募前職場見学の引率・プレゼン対策・応募書類の確認など、生徒一人ひとりに応じた指導が必要である。3年担任をはじめ進路委員会の先生方、そしてあらゆる先生方からご指導やサポートしていただいたことにより、ほとんどの生徒が自分の希望に沿った進路実現ができたように思う。</p> <p>現時点では、在籍233名のうち、就職26名・4大147名・工専3名・短大10名・専門36名の進路先が決定している。</p> <p>② 進路説明会には外部業者による学校説明会、進路教員からの就職・進学に対する進路講話、桃山学院大学と近畿大学とのオンラインでの模擬授業、本校より就職した卒業生2人よりオンラインでの就職講話、そして3年生が後輩に対する先輩講話を実施した。昨年度よりは各大学でのオープンキャンパスが開催されたが、対面方式での学校説明会は3年生にとって大学を直接感じる</p>

ことができる有意義な機会であった。また、外部業者 TAP には進学夏期講座として小論文講座を開いてもらい 40 名ほどの参加者があった。このような説明会などの“きっかけ”を多く持つことによって、生徒の進路意識向上につながると考える。

③就職では入社試験日が例年通りのスタートとなった。結果は、1 回目の試験における内定率は 85%、残りの生徒も 2 回目の試験で全員内定した。また、次年度から公開求人において複数応募が可能になり近畿地方全体の動向に注視しておかないといけない。

④高大連携大学である関西外国語大学・大阪経済大学ではコロナの影響により、日程や講習内容が大きく変更された。大経大はオープンキャンパスと同時開催で説明会が実施され、関外大は春期・夏期をオンライン方式により実施することとなった。2 年生対象の関外大 3 月春講座については対面が 3 日間・オンライン方式が 1 日に変更され、次年度もコロナ禍の影響が続いている。

次年度への改善点

3 校の統合により進路指導部の組織編成からやり直す必要がある。生徒が所属している学科もこれまでと異なり、進路希望先も変化することが予想されるため個々の生徒に対応した細かな指導が必要になる。就職指導も条件次第で同時複数応募が可能になるため、生徒が不利にならないように教員側も準備を整える必要がある。

(6) 〔健康教育部〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 美化・環境整備に関心を持ち、地域の防災リーダーになれるような取り組みを進める。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 5 環境を守る意識の醸成】 安全で快適な校内環境の維持をするため、校内巡視をし、危険箇所や破損がないか定期的にチェックする。</p>	B
<p>指標 保健委員・設備美化委員の活動の一環として、定期巡回や校内放送等の活用を行う。</p>	
<p>取組内容② 【施策 2 道徳教育の推進】 行事ごとに、団活動を通じ活動場所の安全と衛生を保持する指導を徹底させる。</p>	B
<p>指標 担任・生活指導部・部活動顧問・生徒会の協力を得て、指導に取り組む。</p>	
<p>取組内容③ 【施策 2 道徳教育の推進】 一人一人の生徒の成長に関わることのできるように、教職員間の連携を強め、情報や対応の仕方について協議を重ねながら共有できる体制づくりをする。</p>	B
<p>指標 生徒指導関係者会議、成績会議、定例の職員会議など機会に、情報を共有する機会を持つ。</p>	
<p>取組内容④ 【施策 7 健康に関する現代的課題への対応】 感染症など広く健康について知識を持ち、かつ生涯にわたってよりよく生きるために、ソーシャルスキルを含めた基本的な生活習慣の定着と、MHL（メンタルヘルスリテラシー）教育の充実・促進を図る。</p>	B
<p>指標 学校保健委員会でテーマとして取り上げる。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>各種行事を無事に遂行させるために、新型コロナウイルス感染対策は欠かせないものとなった。リーダーを中心として、行事ごとに計画書を提出させ、何度も話し合いを重ねたうえに、前日の巡回指導でさらに指導、改善を繰り返すことで当日は無事に行事を終えることができた。このことは生徒たちの自信にも繋がり、何よりの成果であったと思われる。</p> <p>感染症対策を通して、自他ともに大切にするという意識の定着ができてきたと思われる。</p>
次年度への改善点
<p>扇町総合・南高校と擦り合わせをしながらの行事遂行にあたり、健康教育部が中心となり、感染防止策について統一した指針と方策を早急に立てていく必要がある。</p>

(7)〔人権教育推進委員会〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>限られた時間で、時代のニーズに即した身近な問題を取り上げるなど、生徒の実態に応じた人権教育を推進する。</p> <p>P T A人権委員をはじめ保護者や地域との連携をはかり、さまざまな人権問題についての啓発をめざして、講演会等の研修会を実施する。</p> <p>教職員間での人権意識の向上をめざして、講演会等の研修会を実施する。無理であれば、全校一斉の人権学習講演会に参加してもらう。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>L H Rを利用して、各学年に適した人権問題を絞り込んで取り組みをおこなう。</p> <p>指標 人権教育の年間指導計画より削減はせざるを得ないが有効的に実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>可能であれば全校一斉の人権学習の機会を利用して保護者にも参加をうながす。</p> <p>指標 可能であれば年1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>可能であれば全校一斉の人権学習の講演会に教員も参加をして、研修をおこなう。</p> <p>指標 可能な限り全教職員が参加する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全校一斉人権学習は山口あゆみ様を講師に招き、SNS に関する内容で実施した。コロナ禍もあり体育館には3年生のみ入り、1・2年生は定教室で体育館での講演の映像をライブ中継し視聴する形をとった。</p> <p>学年別では1年生「障がい者」「いじめ」、2年生「北朝鮮拉致被害者」「LGBT」、3年生「就職差別」「LGBT」について各学年2回ずつ実施した。</p>

次年度への改善点

統合もあり、実施形態は決まっていないが2・3年生については3校で同時に同じ内容で実施できればよいが、各校で学年進行が違っていれば複数の内容で展開していく必要がある。今後、コロナウイルスに関連する差別も生じる可能性もあるので、状況に合わせた内容を精査し実施していきたい。

(8)【英語科】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>①授業などで異文化理解、多文化共生、国際理解の大切さを学ばせる。 ②英語をより実践的に使えることをめざす教育を充実させる。 ③英語で発信することの意義を学ばせ、エッセイライティングやプレゼンテーション能力を向上させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>CNET との授業や、異文化理解を促す教材を用いて、異文化理解を深め、個人やグループで世界の様々な問題を話し合い、自らの意見を発信する機会を増やす。</p> <p>指標 少人数セミナーで、文化の違いを尊重しあえる授業案を作る。</p>	B
<p>取組内容②【施策6 多文化共生教育の推進】</p> <p>授業で積極的に英語を用いてコミュニケーションをする活動を増やし、姉妹校等との交流に積極的に参加できるようにする。</p> <p>指標 授業でペアやグループ活動を増やし、コミュニケーション力を高める。</p>	B
<p>取組内容③【施策6 多文化共生教育の推進】</p> <p>スピーチ活動やディスカッション活動で、自分の意見を英語で発信する意義を学ばせ、その能力を養う。</p> <p>指標 少人数セミナーで、スピーチやディスカッションの活動を多く取り入れる。 また、スピーチコンテストへの積極的な参加を促す。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

オーストラリア姉妹校訪問及び受け入れが今年度も中止となる状況であったが、姉妹校と複数回オンライン交流を行った。姉妹校 Bayview College とペンパル交流を継続して行ない、姉妹校 Parkdale Secondary College とクリスマスメッセージを1対1で交換した。イギリスの Prudhoe High School、ベトナムのハノイ工科大学とオンライン交流を行った。通訳案内士の指導を受けながら、留学生に対して大阪城周辺を英語でガイドするプログラムを3回実施した。

次年度への改善点

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、相互訪問の準備と同時に、オンラインでのスムーズな交流環境を整える。継続的に発展的な内容で実施できるよう、引き続き姉妹校の先生方や国際交流センターなど外部団体と連絡を取りあい、国内にいながら英語の実践的活用とコミュニケーション能力の向上をはかる仕組みを作る。

(9)〔流通経済科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 校外活動への参加生徒、提供する機会を増やす。（見学会・講演会・実習・コンテスト・発表・インターンシップ・高大連携企画 参加者のべ20名以上）</p> <p>② 「課題研究」や「広告と販売促進」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。アクティブラーニングを多種多様に取り入れ、実際に地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域での認知度を高める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>多種多様なアクティブラーニングを取り入れる。外部講師による講座を積極的に取り入れ、通常授業では得られない体験をさせる。また、地域でのイベントや販売実習を通じて、接客マナーを学ぶとともに、問題解決能力を身につける。地域や企業などの協力を得て活動し、コミュニケーション能力を育成し、かつ本校の流通経済科の活動について認知度を高める。</p> <p>指標 講演会や販売実習など企画イベントを合わせて年3回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>校外の活動や本校独自の高大連携事業を活用して、大学の見学会や体験講義に参加させる。また、各大学で行われるコンテストなどにも積極的に参加させる。生徒が大学教育に興味・関心が持てるように、進学を希望する生徒の目的意識を高める。</p> <p>指標 大学の見学会、講演会、コンテストなどにのべ20名以上の生徒が参加する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>昨年度実施できなかった、地域連携イベントを実施できた。3～4名でグループを作り、流通経済科全生徒が、企画書を作り、仕入先と交渉し、店舗を作り上げた。内容的に未熟な班もあったが、それぞれのグループが与えられた予算に責任をもって、企画を作り、動員に努めた。結果、2日間で800名ほどの動員が達成できて、大成功に終わることができた。</p>

次年度への改善点
なし

(10) [情報科学科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組みず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 授業や実習を通じて、ネットワーク時代の情報管理と取扱いのモラルについて意識させる。</p> <p>② ネットワーク通信の仕組みを理解することにより、安全かつ合法的な利用方法を習得させ、自己理解、他者理解を通じて道徳心の育成を図る。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 人権を尊重する教育の推進】 SNSを利用する際に発生する人権に絡む事象や知的財産権について、いくつかの事例を挙げながら、利用者の視点だけではなく技術的な側面からも理解させる。 指標 SNSに絡んだ問題事象を防止する。	B
取組内容②【施策2 道徳教育の推進】 ネットワーク通信の技術について正確に理解させるとともに、それを管理する者の責任と義務についても自覚させる。また、道徳教育・キャリア教育を意識した実践を行う。 指標 情報技術についてモラルを守った上で有効に活用できているか確認する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
各専門科目の授業の中で事例を取り上げ、情報モラルや人権尊重について理解を促している。コンテンツを利用した作品制作の際には、フリー素材を使用するなど著作権を特に意識させるように指導している。	
次年度への改善点	
人権を尊重する教育は一定の成果を得ることができた。多くの生徒がSNSを利用している現在、情報を学ぶ生徒として、ネット社会との安全な付き合い方や管理する者の責務と義務について、引き続き教育情報科で学ばせていきたい。	

(11) [教育情報科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 ① 教育探究の授業において生徒間でコミュニケーションをとる機会を増やし、様々な分野にわたる興味関心を深め、リーダーシップの醸成を目指す。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進】 教育探究の授業において、生徒間のコミュニケーションをとる機会を多く設け、安心して発言できる環境を作る。さらに、自己理解、他者理解を深める内容を計画する。	B
指標 生徒が授業内で自由に積極的に発言できる雰囲気ができている。 自分の興味関心がどこにあるのかを意識する生徒を増やす。	
取組内容①【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進】 教育探究の授業において、グループ研究と個人研究を核として取り組み、生徒の興味関心がある分野への意識を深めていく。	B
指標 自分の興味関心がどこにあるのか意識する生徒を増やす。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
教育探究の授業では、答えのない問いに対して生徒たちは限界まで考え、必死に取り組んだ。グループでの活動も多く、「自分の意見を述べるだけではなく他者の意見を聞いてまとめる能力がついた」と生徒たちは感想で述べている。4回行ったプレゼンテーションでは、発表のテクニックに加えて、発想を豊かにすること、論理的に考えること、他者の意見を聞いて思考に活かすこと、情報の信憑性を考えることなど、さまざまな面で生徒たちを成長させることができた。加えて、われわれ教員も授業の準備と実践を進める中で、大きく成長できた。

次年度への改善点
「教育探究」で学んだことをさらに発展させて、3年次の「総合的な探究の時間（教育分野）」の授業をつくり上げること。

(16)〔保健体育科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>①用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、安全な環境づくりへの意識を高め、正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努める能力を高める。</p> <p>③ 実技授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全教育の推進】 用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、安全な環境づくりへの意識を高め、正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努める能力を高める。 指標 安全管理に対する意識の向上について確認する。	B
取組内容②【施策2 道徳教育の推進】 実技授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる 指標 友人との声かけを積極的に行うことで、他人とのコミュニケーション能力向上について確認する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
ルールを守り、安全に授業をおこなうことができた。集団行動をするなかで、規範意識・協調性を高め、社会性を身に付けさせることができた。	
次年度への改善点	
今後も安心、安全で健康的な生活が送れるよう指導を続けていきたい。 体力の向上をモチベーションをあげて取りくむことができるように工夫する。	

(19) [1 学年担任団]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>④ 学年団と学科長の4人で教育相談体制を充実させ、常に生徒80人に4人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。</p> <p>⑤ 学校行事やホームルーム活動、教育探究の授業を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。</p> <p>⑥ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>ホームルームを3人の担任団で回す。生徒たちには学科長を含めた4人全員が自分たちの担任であるという意識に持っていき、相談しやすい教員にそれぞれが相談をできる状態にする。4人の教員も80人全員の担任であるという意識を持ち、4人のうち誰かが、生徒の変化やサインに気付けるようにする。</p> <p>指標 80人の生徒の情報を4人の教員が平等に認識している状態にする。年間生徒1人につき最低2回の個人面談を実施する。</p>	B
<p>取組内容② 【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>学校行事やホームルームの中で自分と異なる考え方の存在を理解するよう働きかける。教育探究では自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションの練習を行う。</p> <p>指標 集団の意味を理解し、各個人が自分の役割を把握して、自発的に集団活動に参加する。80人全員がクラブ活動、生徒会活動、課外活動などの集団活動に参加する。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>保護者や関係部署との連携を密にするために、3者面談を全員と1度は実施する。ICTを活用した保護者への情報提供の徹底。</p> <p>指標 指導方針の理解と協力をいただけるように、各学期に教育相談を実施する。定期的に学年通信を発行する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全体的に素直な生徒が多く、教員の指導をよく聞き、向上心をもって諸活動に取り組んでくれた。担任団によるサポート体制もしっかり機能した。「教育探究」の授業を通して、「主体的な深い学び」を実践した。班による探究活動により他者の意見を尊重しながら自身の意見を述べまとめる能力も育った（生徒の授業感想に多く書かれていた）。「Google Classroom」を用いた宿題連絡や課題提出、行事関連の連絡も機能した。学初めやテスト発表時、学期末など節目の時期に学年通信を発行して、連絡や意識付けを行うことができた。</p>

次年度への改善点
<p>次年度同じフロアで過ごす、南高校、扇町総合高校の教員そして生徒たちと連携を取り、1つの学年であるという意識を芽生えさせること。</p>

(20)〔2学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>⑦ 学年団と学科長の4人で教育相談体制を充実させ、常に生徒76人に4人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。</p> <p>⑧ 学校行事やホームルーム活動、委員活動を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。</p> <p>③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>ホームルームを3人の担任団で回す。生徒たちには3人全員が自分たちの担任であるという意識に持っていき、相談しやすい教員にそれぞれが相談をできる状態にする。3人の教員も76人全員の担任であるという意識を持ち、学科長を含めた4人のうちの誰かが、生徒の変化やサインに気付けるようにする。</p> <p>指標 76人の生徒の情報を4人の教員が平等に認識している状態にする。 年間生徒1人につき1回以上の個人面談を実施する。</p>	B
<p>取組内容② 【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>学校行事やホームルームの中で自分と異なる考え方の存在を理解するよう働きかける。自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションの練習を行う。</p> <p>指標 集団の意味を理解し、各個人が自分の役割を把握して、自発的に集団活動に参加する。76人全員がクラブ活動、生徒会活動、課外活動、委員活動などの集団活動に参加する。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>保護者や関係部署との連携を密にするために、3者面談を全員と1度は実施する。ICTを活用した保護者への情報提供の徹底。</p> <p>指標 指導方針の理解と協力をいただけるように、各学期に教育相談を実施する。 生徒たちが教員に相談ができる環境・雰囲気構築する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>2年間をかけて実施してきた全員担任制については、相談しやすい教員への相談、情報、英語の専門教員による活動への誘導など、一定の成果が上がった。保護者との連携についても、3人の担任団との面談を実施することで、より深い信頼関係につながった。</p>

次年度への改善点
<p>3人担任制が取れなかったとしても、3人で学年75名の進路決定ができるところまでフォローしていく。3校合併の中で、様々なルールの変更などに生徒たちが戸惑わないように、学校間の打ち合わせを密にしていきたい</p>

(21)〔3 学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 自主的で良好な基本的生活習慣の確立をめざす。</p> <p>② ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。</p> <p>③ 様々な活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。</p> <p>④ 保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>自主的で良好な基本的生活習慣を確立し、遅刻・欠席を減少させ、自己管理を徹底させる。</p> <p>指標 心身の健康管理の大切さとその方策を伝える。また各クラスにおいて遅刻、欠席の減少をさせ、自己管理を徹底させる。年間精皆勤率 60%以上をめざす。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。</p> <p>指標 挨拶や正しい言葉遣いを徹底させ、安全で快適な校内環境の維持をする。また登下校中の交通事故等をなくす。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>部活動・生徒会活動・団活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。</p> <p>指標 最高学年の上級生として下級生への模範となる意味でも、各行事への全員参加を促す。</p>	B
<p>取組内容④【施策3 保護者や地域住民に開かれた学校園の運営】</p> <p>保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。</p> <p>指標 学年会と生徒指導部との連絡会を通じて適宜懇談を実施することで、迅速で的確な指導を徹底する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>基礎学力の定着およびそこから繋がる希望進路を実現させるための個々の学習活動の支援を続け、ほとんどの生徒が自己実現のための努力を重ね、例年以上の資格取得も実現できた。進路指導部とも連携しながら、生徒の希望進路先も概ね決定している。</p>

次年度への改善点
<p>新生活をスタートする生徒たちを引き続き全力で応援したい。</p>